

重度知的障害者の日中活動支援に関する調査研究

—知的障害者更生施設（新体系及び旧体系）を対象とする

日中活動に関する全国調査結果から—

松永千恵子 樋口幸子 村岡美幸（企画研究部研究課）
五十嵐敬太 吉澤ゆう子（企画研究部研究課）
高橋直 石坂和久 関口智絵 渡邊守（生活支援部）
松本佳雅 矢島佳代 安野絵美子（生活支援部）
水嶋友昭 中島穰 下田泰司（外部研究協力者）

要旨： 本研究では、近年、ますます顕在化する知的障害者の重度・高齢化への対応を中心に日中活動の支援の状況に関するアンケート調査を全国の知的障害者更生施設すべて（1412施設）に行った。本調査の回収率は67.8%、調査結果からは、日中活動に課題があると答えた施設が全体の93.9%、その要因としては、施設の職員数の少なさや、利用者の年齢や特性の幅が広いために全利用者への十分な支援が行き届かない点が挙げられた。また、障害者自立支援法移行群と未移行群では日中活動の内容に差がないことも分かった。今後の日中活動の取り組みには、重度・高齢化への対応を含め、日中活動支援を行っている他の事業所の活用を含めた多角的かつ積極的な事業展開が望まれる。

キーワード： 知的障害者更生施設、日中活動、重度・高齢化、全数アンケート調査

1. はじめに

日本における知的障害児・者の状況は「知的障害児（者）基礎調査」（平成17年）によれば、在宅の知的障害児（者）は41万9000人（推計）、同年10月の社会福祉施設等調査では施設入所者（児）12万8300人、この結果から全国の知的障害者（児）は54万7300人と推計される。前回（平成12年）調査の総数は45万318人（推計）であることから、5年間で約9万人の増加であった。高齢化については「知的障害児（者）基礎調査」（平成2年）の総数は385,000人、18歳以上は254,400人、内60歳以上が14,000人（3.6%）であったが、平成17年には60歳以上が25,000人（4.5%）となり、高齢者の増加を示している。さらに障害の程度については、平成2年の「最重度」「重度」の合計は123,500人（43.5%）、平成17年度は164,600人（39.3%）とパーセンテージは減少しているが、実態人数は増加の一途である。

このような状況下、重度・重複化及び高齢化に対する日中活動を含めた施設での支援は、現場職員の間心事として全国知的障害福祉関係職員研究大会にて度々取り上げられている（「第46回全国知的障

害福祉関係職員研究大会」2008、第44回、第42回、第38回)。また、障害者自立支援法の移行に伴い、新しく設定された生活介護や就労移行支援事業等の障害福祉サービスの状況についても雑誌に特集が組まれるなど障害関係者の関心が集まっていることが伺える。

知的障害者の日中活動についての調査は、全国事業所国保連集計や財団法人日本知的障害者福祉協会の『全国知的障害児者施設・事業実態調査報告書』⁴⁾による実施状況の把握はあるが、調査研究としてはなされていない。

そこで、本研究では全国の知的障害者更生施設における日中活動の現状及び課題の把握を行い、高齢あるいは重度知的障害者の日中活動に参考となるような活動を探索し、今後の知的障害者更生施設の日中活動に資することを目的とする。

2. 研究方法

本研究の開始にあたり、国立のぞみの園内に外部の施設職員2名を含めた合計15名からなる調査研究班を設置し、毎月1～2回程度の研究会議を開催した。アンケート調査の項目は、この研究会議および日中活動に関係する部所の長によって検討され決定された。

本研究の方法は、次の2つの方法による。

①日中活動内容調査の実施

対 象：平成20(2008)年7月時点の全国知的障害関係施設名簿2006に掲載された知的障害者入所更正施設全数(1412施設)

方 法：郵送配布・郵送もしくはFAXによる回収

倫理的配慮：回答は全て統計的に処理すること、個々の回答内容が回答者個人と結びつけられる形で利用されたり、調査目的以外に使用したりしないことを調査依頼文に明記した。

回収数：958票(平成20年9月16日現在)

回収率：67.8%(平成20年9月16日現在)

②好事例事業所等の見学調査

見学先の選定条件：1) ①の調査結果より、日中活動の好事例事業所を選定

2) 「施設」の枠にとらわれない、先進的な取り組みを行っている施設

方 法：研究メンバーが3班に分かれ、見学調査

期 間：1) 平成20年11月26日(水)～27日(木)

2) 平成20年12月 3日(水)

3) 平成20年12月15日(月)

3. 日中活動内容全国調査結果

3-1. 単純集計

I. 施設の概況

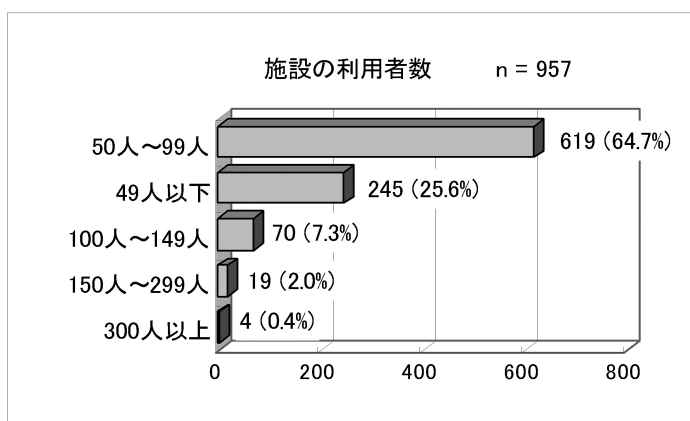
問1 施設の利用者数

利用者数を教えてください。

1. 49人以下 2. 50人～99人 3. 100人～149人 4. 150人～299人 5. 300人以上

本調査結果では、50人～99人が一番多く、全体の64.7%を占める。

図表1



問2 利用者の平均年齢 44.2歳 (n = 958)

利用者の平均年齢を教えてください。

利用者平均 _____ 歳

平成18年版全国知的障害児・者施設実態調査報告書によれば、「知的障害者入所更生施設の利用者のうち65歳以上の高齢者は8.5%で前年度比0.9%ポイントの増加であり、この施設種別の高齢化傾向はさらに進んでいる」とのことである。

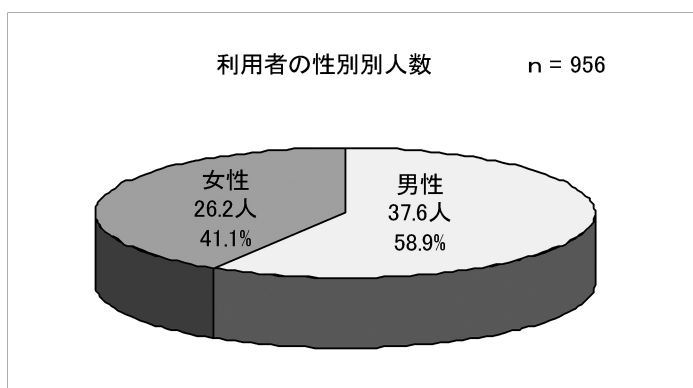
問3 利用者の性別別人数

利用者の性別別人数を教えてください。

1. 男性 _____ 人 2. 女性 _____ 人

1 施設平均は男性 37.6 人、女性 26.2 人となっている。総数に占める割合としては、男性 58.9%、女性 41.1%で、男性は女性の約 1.5 倍となっている。平成 18 年版全国知的障害児・者施設実態調査でも、男性は 60.6%、女性 39.4%であり、ほぼ同じ調査結果を得ている。このような男女の構成比は知的障害児・者施設特有のものと推察できる。

図表2



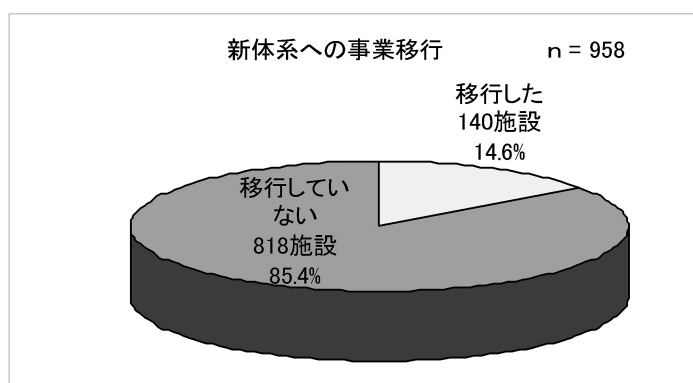
問4 新体系への事業移行

貴施設では、新体系への事業移行をしていますか。

1. 事業移行した 2. 事業移行していない

事業移行した施設 140 施設、事業移行していない施設 818 施設であり、事業移行していない施設が 85.4%と大部分を占める。

図表3



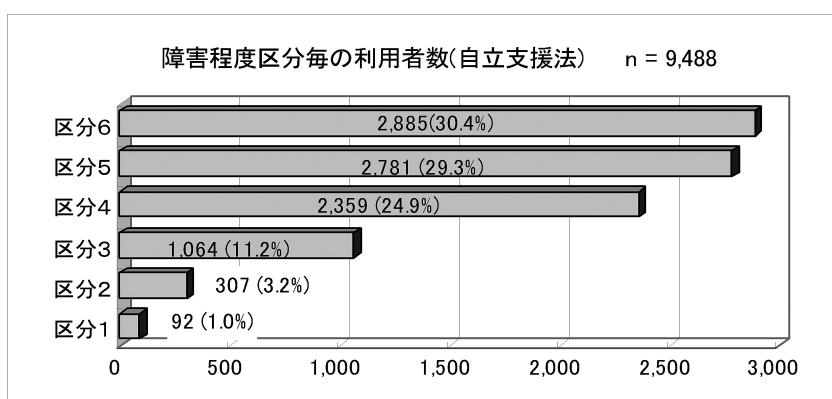
問5 障害程度区分毎の利用者数（新体系へ移行した施設のみ）

問4で「1. 事業移行した」と答えた方にお伺いします。障害者自立支援法による障害程度区分毎の利用者数を教えてください。

1. 区分1 _____ 人 2. 区分2 _____ 人 3. 区分3 _____ 人
 4. 区分4 _____ 人 5. 区分5 _____ 人 6. 区分6 _____ 人

新体系へ移行した施設の利用者の総数は9,488人、うち区分6が2,885人（30.4%）、区分5が2,781人（29.3%）と、この2つの区分で約6割を占めていた。知的障害者入所更生施設の利用規定は区分4以上、50歳以上は区分3以上となっているが、調査結果から支援サービスの必要度が高い人が入所していることがはっきりとした。

図表4



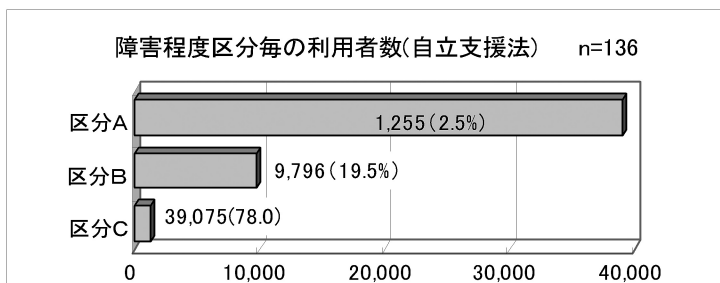
問6 支援費制度による障害程度区分毎の利用者数

問4で「2. 事業移行していない」と答えた方にお伺いします。支援費制度による障害程度区分毎の利用者数を教えてください。

1. A _____ 人 2. B _____ 人 3. C _____ 人

旧法（支援制度）の下での施設での障害程度区分毎の利用者は、区分Aが39,075人（78.0%）と約4分の3を占めている。

図表5



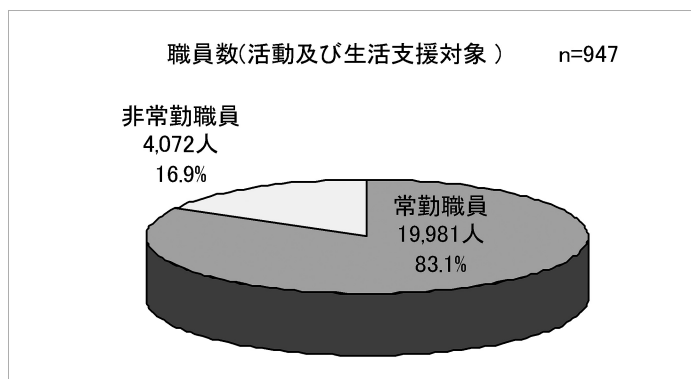
問7 職員数

職員数を教えてください。（活動及び生活支援員のみ対象。看護師、管理栄養士、調理員等は除く）。

1. 常勤職員 _____ 人 2. 非常勤職員 _____ 人

回答のあった 947 施設における常勤職員と非常勤職員の割合は 83.1%、非常勤職員 16.9%である。また、直接処遇職員の正規雇用の割合は、「9割が正規職員である」という施設が 27.4%であった。

図表 6



施設の規模別に職員数を整理してみたところ、図表 7のとおりであった。

図表 7

	常勤			非常勤			常勤+非常勤		
	最低	平均	最大	最低	平均	最大	最低	平均	最大
49 人以下	3	15	48	0	4	31	3	19	52
50~99 人	3	21	9	0	4	32	3	25	117
100~149 人	15	41	117	0	6	70	15	47	159
150~299 人	19	65	158	0	11	56	19	75	214
300 人以上	36	147	240	0	38	73	36	185	313

II. 現在の日中活動について

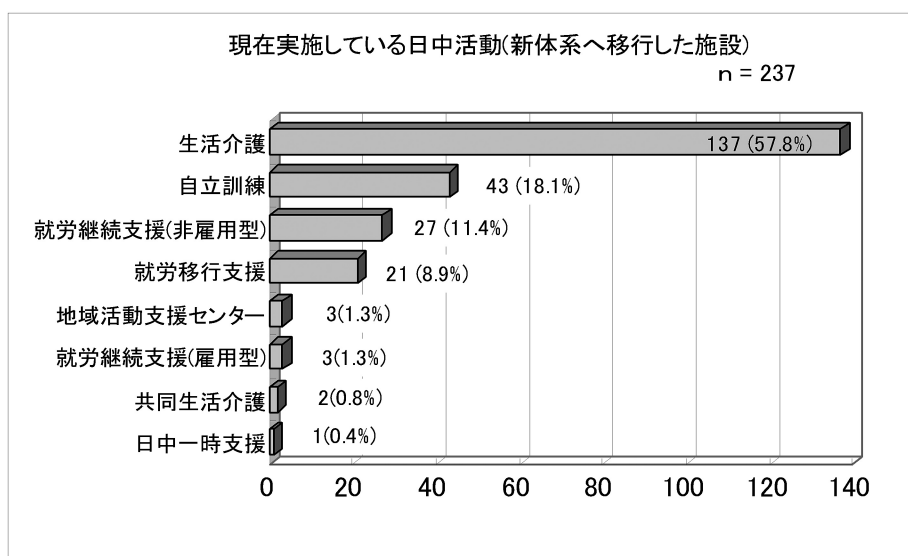
問8 現在実施している日中活動（新体系へ移行した施設）

現在実施している日中活動を教えてください。

- 1.生活介護 2.就労移行支援 3.自立訓練 4.就労継続支援（非雇用型）
5.就労継続支援（雇用型） 6.地域活動支援センター 7.その他（ ）

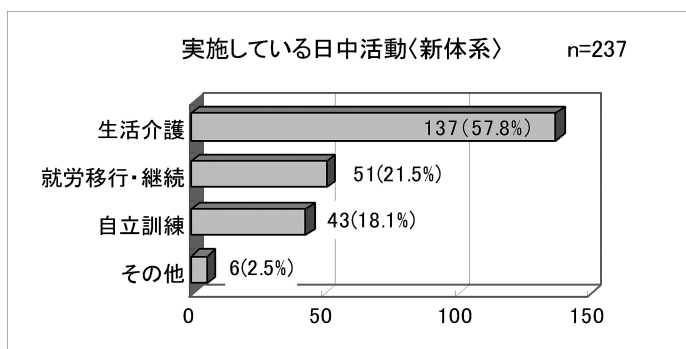
新体系へ移行した施設の現在実施している日中活動は、生活介護が57.8%で半分以上を占めている。

図表8



上記の日中活動を、「生活介護」「自立訓練」「就労移行・継続」「その他（地域活動センター・共同生活介護・日中一時支援）」の4類型に整理してみると、生活介護について就労関係が多くなっている。

図表9



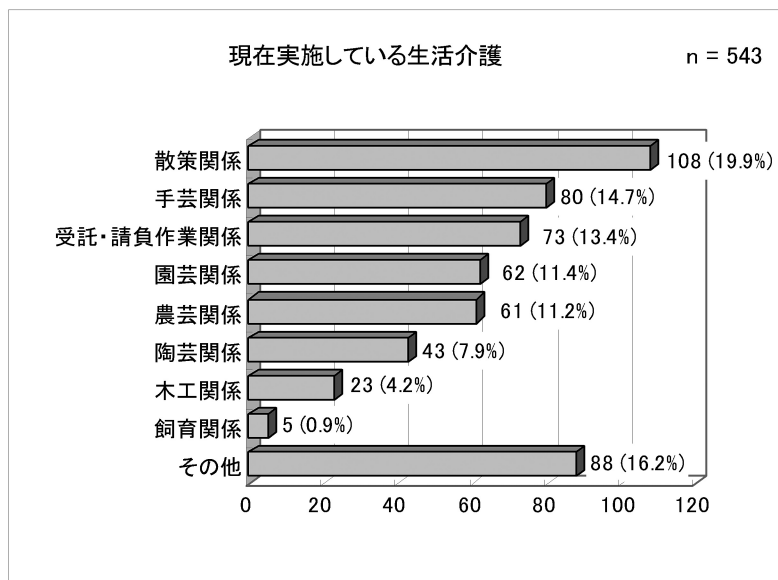
問9 「生活介護」の活動内容

問8で、「1. 生活介護」を選んだ方にお伺いします。貴施設で行っている活動内容を教えてください。（複数回答可）

1. 園芸関係 2. 受託・請負作業関係 3. 手芸関係 4. 飼育関係 5. 散策関係
 6. 農芸関係 7. 木工関係 8. 陶芸関係 9. その他（ ）

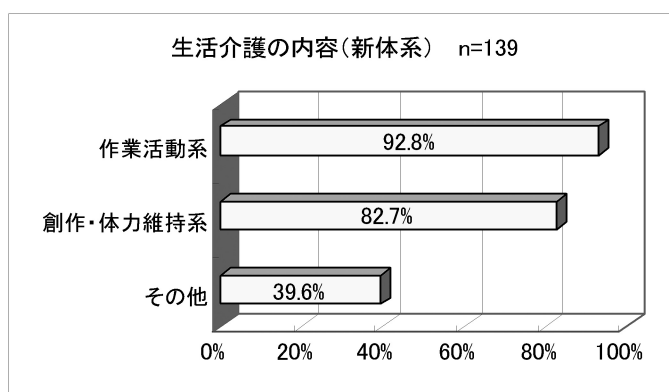
生活介護の活動内容は、散策関係が最も多く20%弱、次いでその他であった。その他の内容は、下記に記す通り作業系のみならず様々な活動が行われていることがわかる。

図表 10



問9の回答内容を大きく「作業活動系」、「散策関係」、「その他」（手芸、受託・請負、園芸、農芸、陶芸、木工、飼育のいずれか1種類にでも「○」がついていれば「作業活動系」とした。）に分けてみると、作業活動系の活動を実施している施設が9割を超えている。

図表 11



その他 (39.6%) の内容は、絵画、リトミック、カラオケ、機織り、和紙作り、キャンドル作り、染め物、生け花、フラワーアレンジメント、華道、音楽療法、機能訓練、歩行訓練、感覚統合、ムーブメントセラピー、リラクゼーション、清掃、リサイクル、体操、スポーツレクリエーション、散歩、ダンス、プールサイクリング、パン製造、菓子(クッキー・せんべい)、玉子・野菜仕入れ販売、お茶のパック詰め、蜂蜜販売、ドライブ、公共機関利用(バスハイク)、地域交流参加、入浴介護、医療ケア、ミュージックケア、家事全般、洗濯などである。

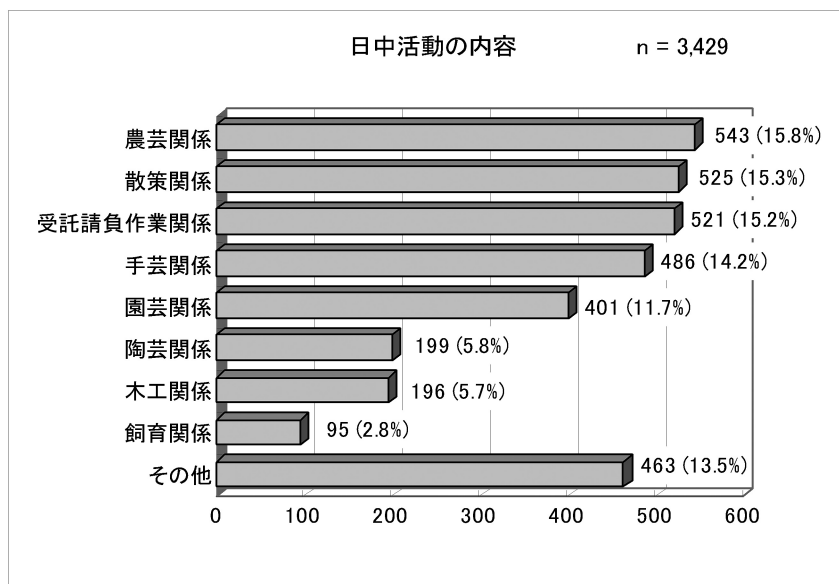
問10 日中の支援の取り組み (事業移行していない施設)

日中の支援としてどのような取り組みをされているか教えてください (複数回答可)。
 *取り組み内容が記載されているパンフレット等がある場合は、そちらでの回答も可。
 その場合は、返送の際にパンフレットの同封をお願いします。

1.園芸関係 2.受託・請負作業関係 3.手芸関係 4.飼育関係 5.散策関係
 6.農芸関係 7.木工関係 8.陶芸関係 9.その他 ()

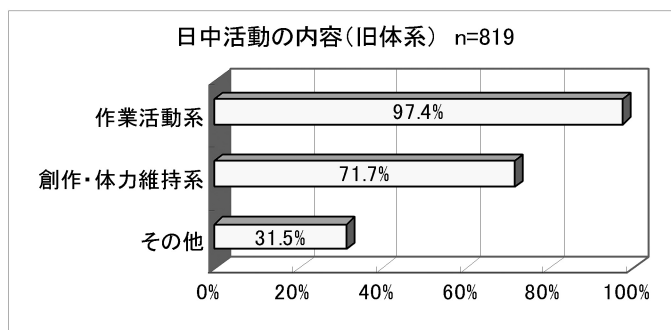
事業移行していない施設の日中支援の取り組みとしては、農芸関係、散策関係、受託・請負、手芸が15%代で並んでいる。

図表 12



問10の回答内容を問9と同様の方法で大きく「作業活動系」、「散策関係」、「その他」に分けてみると、作業活動系の活動を実施している施設が9割を超えている。これは新体系へ移行した施設においても同様の結果だった。

図表 13



問11 高齢の利用者が多く参加している活動

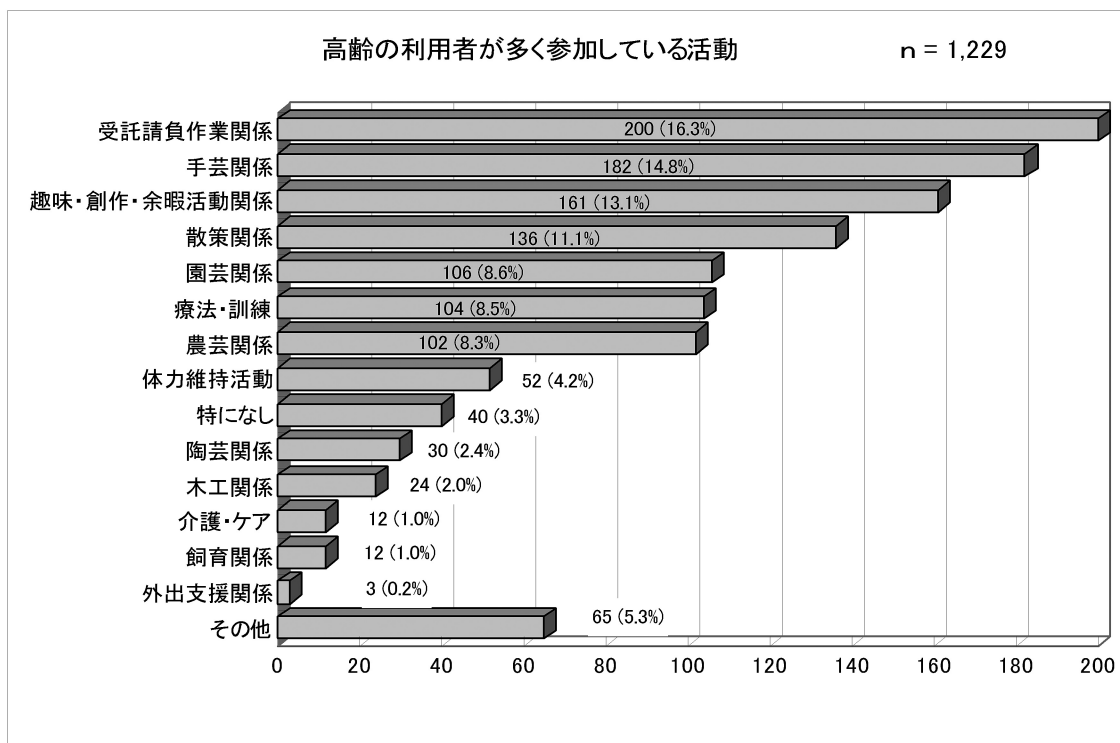
問9ないし問10で回答した、「活動」ないし「取り組み」（以下、「活動」で統一します。）の中で、高齢の利用者が多く参加されている活動がありましたら教えてください。

*本調査でいう「高齢」とは、60歳以上とします。

参考文献：高齢知的障害者の特性と問題及び方策 <http://douaikai.com/ronbun/koureishougai2.htm>)

高齢の利用者が多く参加している活動は、図表 14 をみると分かるように多岐に渡っていることが明らかである。代表的な活動は、受託・請負作業関係 (16.3%) と、手芸関係 (14.8%) である。

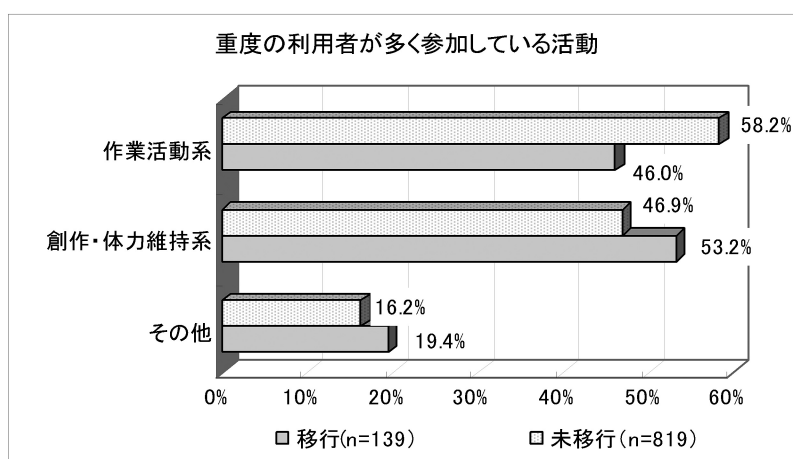
図表 14



- ・ 受託請負作業関係(200件)・・・リサイクル、クリーニング、清掃、箱作り、ダンボール加工、ペン組み立て、自動車部品検品、シール張り、精肉パック詰め、造花作りなど。
- ・ 手芸関係(182件)・・・ビーズ、編み物、刺し子、布巾作り、パッチワーク、さをり織り、クッション作り、クロスステッチ、ボタンはめ、足拭きマット作りなど。
- ・ 趣味・創作・余暇活動関係(161件)・・・絵画、契り絵、テレビ・映画鑑賞、カラオケ、日本舞踊、茶道、レクリエーション、老人クラブ参加、ボランティア活動参加など。
- ・ 散策関係(136件)・・・散策、散歩など。
- ・ 園芸関係(106件)・・・花栽培、草取り、水やり、ハーブつみなど。
- ・ 療法・訓練関係(102件)・・・機能訓練、歩行訓練、音楽療法、アート療法、リハビリテーション、アロマセラピー、エステティックセラピーなど。
- ・ 農芸関係(102件)・・・野菜栽培、椎茸栽培、堆肥・ぼかし作りなど。
- ・ 体力維持活動関係(52件)・・・3B体操、ストレッチ、リズム運動、ボール運動、プール、気功など。
- ・ 陶芸関係(30件)・・・湯のみ、箸おき、コーヒーカップ、花瓶、皿、土鈴の作品作りなど。
- ・ 木工関係(24件)・・・花台、テーブル、長椅子、食台、コースター、塔婆、流木を使った作品作りなど。
- ・ 介護・ケア(12件)・・・入浴介護、身体介護、バイタルサインチェック、マッサージ、足浴など。
- ・ 飼育関係(12件)・・・ニワトリ、小動物の飼育。
- ・ 外出支援関係(3件)・・・個別外出、買い物など。

問11の回答内容を大きく「作業活動系」、「創作・体力維持系」、「その他」(手芸、受託・請負、園芸、農芸、陶芸、木工、飼育のいずれか1種類にでも「○」がついていれば「作業活動系」とし、体力維持、散策、趣味・創作のいずれか1種類にでも「○」がついていれば「創作・体力維持系」とし、介護・ケア、外出支援、療法・訓練のいずれか1種類にでも「○」がついていれば「その他」とした)に分けてみると、移行しているしいてないに関わらず、作業活動系の活動を実施している施設が最も多くなっている。

図表 15

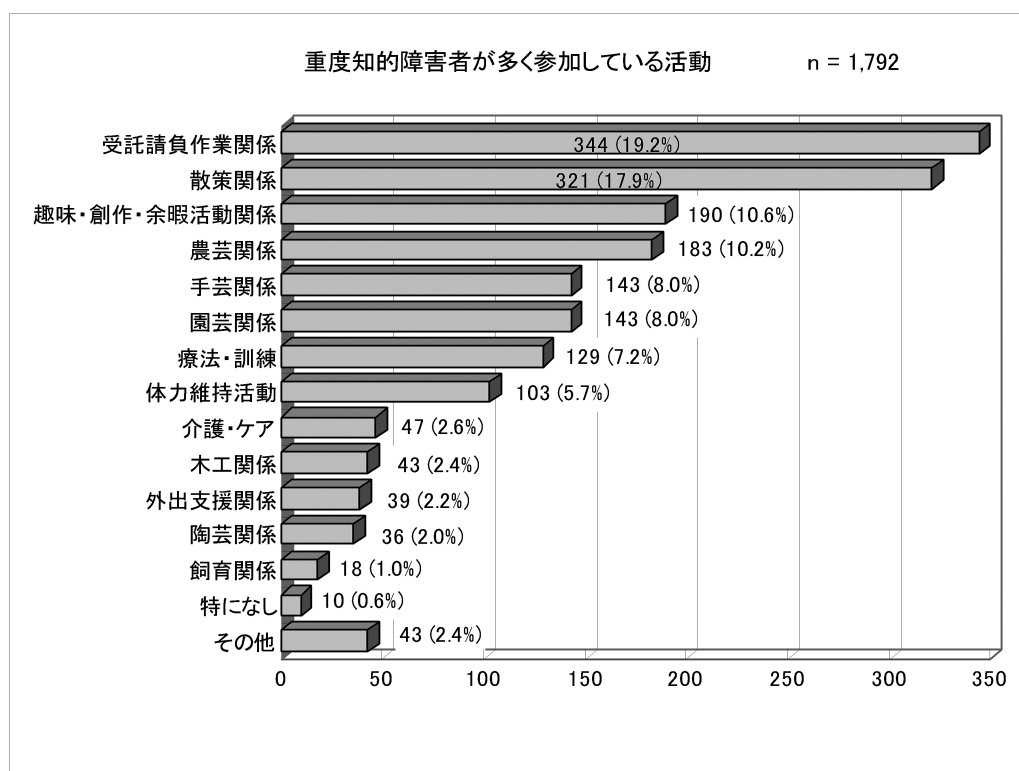


問 12 重度知的障害の利用者が多く参加している活動

問 9 ないし問 10 で回答した活動の中で、知的障害の重度の利用者が多く参加されている活動がありましたら教えてください。*本調査でいう「重度」とは、厚生労働省(知的障害児(者)基礎調査)に従い、IQ35 以下とします。なお、IQ36~50 (中度) で、身体障害者福祉法に基づく障害等級が1・2・3級に該当する方の場合、重度となります。

重度知的障害のある利用者が多く参加している活動は、受託・請負作業関係であり、全体の約4分の1を占める。第2位は散策関係(19.4%)、第3位は余暇・趣味活動関係(12.8%)である。

図表 16

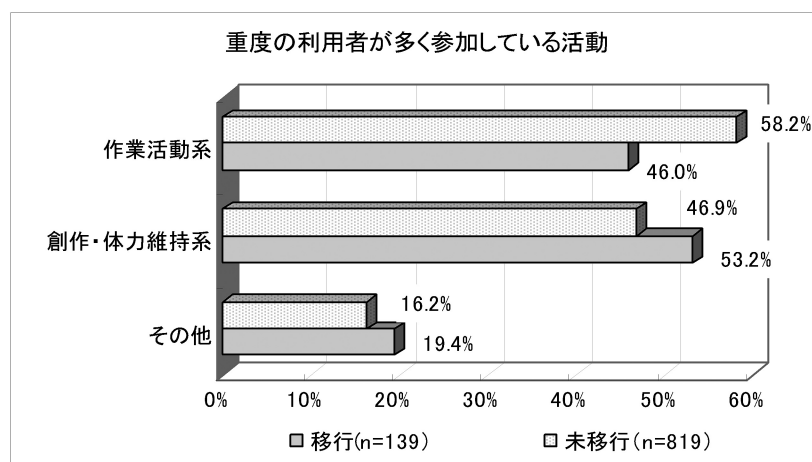


- ・ 受託請負作業関係(344 件)・・・リサイクル、箱作り、箸入れ作業、カレンダー製作、石けん作り、市からの委託作業、造花作り、プルタブはがし、クッキー作りなど。
- ・ 散策関係 (321 件)・・・散策、散歩、ハイキングなど。
- ・ 趣味・創作・余暇活動関係 (190 件)・・・音楽活動、音楽鑑賞、カラオケ、絵画、塗り絵、ちぎり絵、テレビ・映画鑑賞、日向ぼっこ、折り紙、紙芝居など。
- ・ 農芸関係 (183 件)・・・野菜栽培、椎茸栽培、腐葉土作り、ケナフ栽培など。
- ・ 手芸関係 (143 件)・・・ビーズ、刺繍、雑巾作り、さをり織り、クッション作り、編み物、パッチワーク、染物、など。
- ・ 園芸関係(143 件)・・・花栽培、草取り、水やりなど。
- ・ 療法・訓練関係 (129 件)・・・音楽療法、歩行訓練、機能訓練、心理的リハビリ、ADL 維持訓練、スノーズレンなど。

- ・ 体力維持活動関係(103件)・・・リズム運動、ボール運動、エアロビクス、ストレッチ、プール、3B体操、トランポリン、ヨガ、乗馬など。
- ・ 介護・ケア(47件)・・・特浴、フットケア、マッサージ、療育的支援など。
- ・ 木工関係(43件)・・・銘木磨き、花台作り、やすりがけなど。
- ・ 外出支援関係(39件)・・・ドライブ、外食、買い物、旅行、交通機関の利用など。
- ・ 陶芸関係(36件)・・・はし置き、皿、コップ花びん、陶器の粉砕、作品の基礎づくり、干支のおき物、タタラ作りなど。
- ・ 飼育関係(18件)・・・ニワトリ、ヤギ、カブトムシの飼育など。

問12の回答内容を問11と同様の方法で大きく「作業活動系」、「創作・体力維持系」、「その他」に分けてみると、移行していない施設においては作業活動系の活動を実施している施設が最も多く(58.2%)、次いで創作・体力維持系(46.9%)であるのに対し、移行した施設においては創作・体力維持系(53.2%)が最も多く、次いで作業活動系(46.0%)となっている。

図表 17

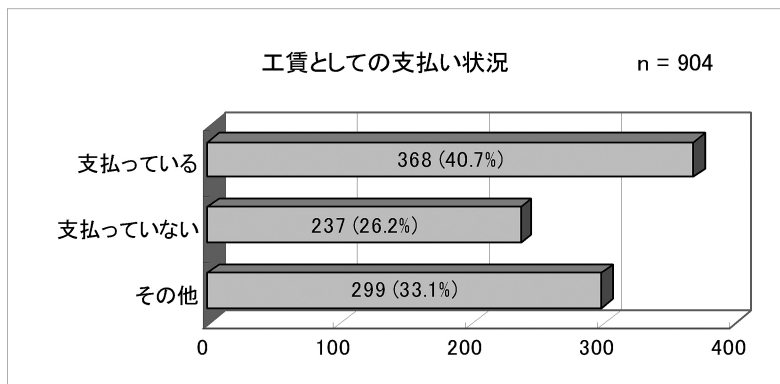


問13 生活介護もしくは日中支援により得られた収入は、工賃等として利用者に支払っているか。

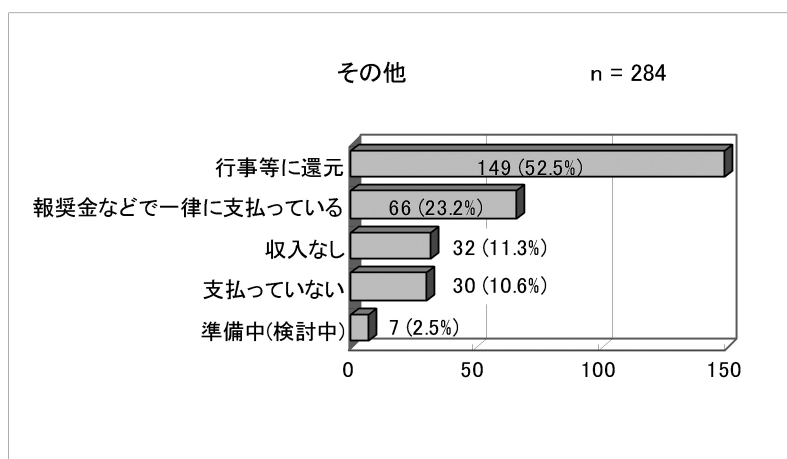
- 生活介護もしくは日中支援により得られた収入は、工賃等として利用者に支払っていますか。
1. 支払っている
 2. 実費を補うので精一杯で、利用者に支払っていない
 3. その他

工賃の支払い状況は、全体の38.5%ことどまり、約6割の利用者は工賃を受け取っていないことになる。しかし、その他の回答から工賃の代わりに行事等への還元、報奨金などで使われていることがわかる。その他の内容は図表19のとおりである。

図表 18



図表 19



問 14 工賃の支払いは、どの活動にどのくらいで、労働時間はどのくらいか。

問 13 で「1. 支払っている」と答えた方にお伺いします。どれくらいの工賃を支払っていますか。活動の内容と、その活動における 1 人当たりの、ひと月の平均支払額とひと月の平均労働時間を教えてください。

活動内容	1.	・平均支払額	円	・平均労働時間	時間/月
活動内容	2.	・平均支払額	円	・平均労働時間	時間/月
活動内容	3.	・平均支払額	円	・平均労働時間	時間/月

工賃の支払い額について、全回答の平均時給は 51.82 円、最も高い時給は 5,555.56 円（受託作業）、最も低い時給は 0.04 円（園外請負作業と園内作業合わせて）である（図表 20）。図表 21 から分かるように、時給 100 円以下の活動が多い。

図表 20

	時給換算額 (円)	作業内容
全回答の平均 (N = 575)	51. 82	
時給換算額の安い作業	0. 04	園外請負作業(清掃)+園内作業
時給換算額の高い作業	5, 555. 56	受託作業

図表 21

時給1円~50円		
36件・農園芸活動		
27件・受託請負作業		
11件・リサイクル		
8件・請負軽作業		
7件・手芸		
6件・空き缶	・軽作業	・しいたけ
5件・手工芸		
4件・園芸	・陶芸	・内職
3件・委託	・工芸	・下請け
2件・養鶏	・織物作業	・環境整備
・受注	・療育班	・生産
・手芸	・機能維持	・箱折(下請)
・販売	・室内作業	・エコ・アウトス
・木工	・パン製造	
1件・解体	・受託加工	・エコパック袋詰
・和紙	・療育班	・紙工+農園
・訓練	・豆腐製造	・園外請負作業(清掃)+園内作業
・配食	・自立課題	・紙加工+釘しめ
・薪	・野菜生産	・菓子箱折り+箸の袋入れ
・EM	・園内作業	・クッキー製造・販売
・販売	・オムツたたみ	・軽作業(造花組立他)
・清掃	・外注(箱折り等)	・紙器加工科+農産科+生活訓練科
・作業	・施設内作業	・椎茸+農工関係
・洗車	・カレンダー製作	・施設内受注作業
・小ネギ	・乳牛科(B型)	・手芸+木工+リサイクル
・リネン	・DM封入+洗車等	・運搬班(ペットボトル)
・受注	・乾燥しいたけ	・受託+農業+資源回収
・木工	・鉢低ネット	・受託作業+農園芸
・生産	・清掃(委託)	・就労継続支援B型
・養鶏	・さしこ+雑巾縫い	・生活介護(収入のある活動)
・釘作業	・堆肥づくり	・リサイクル+薬草関係
・受託班	・散策関係	・チャレンジ班・林産班
・片栗粉	・加工作業	・創作+委託作業
・しめじ	・自主生産	・健康づくり+手芸+リサイクル
・洗たく	・受託(箸の袋入れ)	・鶏飼育+椎茸栽培+野菜作り+ウェス作り
・ウェス	・受託作業、飼育	・タオル+寺院清掃等
・造形	・受注軽作業	・電子部品の組立て
・外勤班	・製菓+製パン	・農芸+園芸+木工
・割箸班	・ハガキ作り	・肥料の袋詰め作業
・自立班	・縫製作業	・ブロック+農場+縫製+園芸
・ちらし折り	・ホチキス針	・ペットフードの袋詰め
・製パン	・パッケージング	・風松ソース小袋をセットを大袋へ
・はし入れ	・ダンボール+銅線	・木工作业+歩行訓練
・オカバック	・その他の仕事	・廃食油再成燃料作業
・ステップル	・土皿作り+農園芸	・リサイクル+軽作業
・果樹栽培	・散策+運動以外	・フルーツキャップ(請負作業)

<ul style="list-style-type: none"> ・紙すき ・牛乳パック ・ゴザ加工 ・職場実習 ・手芸+木工 ・養鶏+農芸 ・受託(箱折等) ・受託加工班 ・残糸とり ・除草作業 ・生活班 ・マット ・洗たく物整理 ・縫いの補修 ・卵販売 ・その他の係 ・通所者12名 ・成羽箸作業 ・はたおり ・袋の紐通し ・舞茸栽培 ・みそ+漬物 ・就労移行班 ・作業班(農耕班+園芸班+手芸班+木工班+陶芸班+林産班+紙工班) ・カートン班作業+箱折り+のり付け+アルミ缶回収等 ・木磨き作業+箱折り作業+陶芸作業+農耕園芸作業 ・ペットボトルのリング+ラベルはがし+仕分け及びアルミ缶の仕分け 	<ul style="list-style-type: none"> ・蜂蜜販売 ・手すき和紙作り ・農園養鶏 ・美化+生活 ・療育+陶芸 ・割りばし製造 ・受注+製品販売 ・リード線作業 ・和紙+健康茶作り ・自主製品+受注作業 ・農作物の販売 ・木工のやすりがけ ・委託製函作業 ・作業評価Aの方のみ ・靴の中敷袋入れ ・木工+クラフト関係 ・下請(綿棒詰め) ・手芸品の販売 ・手芸+EMボカシ ・園芸班(野菜販売) ・スポーツ+園芸班 ・農園芸+請負作業 ・野菜+生味噌+打ち豆づくり+ひらたけ栽培+廃油石けん等 	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル+手芸+農芸 ・下請+リサイクル+自主制作 ・清掃+箸入れ作業) ・内職作業(箱折り等) ・木工班作業+絵馬+板ハガキ作り等 ・造花ちぎり+組立作業 ・椎茸+調理+ぶどう+せんたく ・自主製品作り+下請け作業他 ・木箱作製(折り詰め)の赤飯用) ・食品加工関係+紙加工関係 ・請負作業(箱折り作業) ・施設内掃除+椎茸+食品(ジャム) ・印刷+ヘッドホン洗浄 ・パッチワーク手芸品作成 ・飼育+農業+食品加工 ・軽作業(外注作業)、字種製品(ビーズ等) ・割箸作業+シール貼作業 ・洗濯+清掃業務 ・せっけん製造作業 ・ラベル+キャップはずし ・木工+農作業+手芸 ・農園芸+小物作り+輪ゴム箱詰め
時給51円~100円		
<ul style="list-style-type: none"> 5件・受託請負作業 2件・陶芸 ・農作業 1件・織織り ・加工班 ・実習 ・草刈り ・受注 ・農園芸 ・椎茸班 ・パン製造 ・縫製 ・箱折り ・水産加工 ・公園清掃 ・掃除委託 ・就労移行 ・リサイクル ・配線作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルミ缶つぶし ・菓子、パンの製造 ・給食+食品 ・アルミはがし作業 ・自主製品作成 ・受注品作業 ・洗濯+清掃関係 ・タオル関係 ・玉子バックづめ ・玉ネギ作業 ・OA機器リサイクル ・軽作業+音楽療法 ・クリーニング業務 ・リサイクル+紙すき ・陶芸+リサイクル ・特別分けていない ・農耕+解体 	<ul style="list-style-type: none"> ・軽作業 ・割り箸の袋入れ ・請負作業(エプロンたたみ) ・自動車部品(日産)のグリース取り ・受託作業(アルミ缶リサイクル) ・事業所内での実習(園芸) ・生きがい班(軽作業) ・請負+手芸+農業 ・水道部品組立作業 ・ダンボール箱折り作業 ・通所者1名 ・つけもの加工作業 ・就労継続B型 内職+箱折り等 ・地元町の受託で草取り作業 ・クリーニング+タオル畳み ・受託作業茸クリップ詰め ・農作物一次加工 ・花卉栽培+草刈
時給101円~150円		
<ul style="list-style-type: none"> 4件・受託請負作業 2件・箸入れ作業 1件・エコ班 ・喫茶 ・手芸班 ・トウフ製造 ・ネジ作業 ・農作業 ・食品加工 ・さをり織り 	<ul style="list-style-type: none"> ・陶芸 ・ホテル業務 ・CDの袋詰め ・散策+園庭管理 ・段ボール組立 ・ダンボール作業 ・箱おり+袋づめ等 ・パン製造+販売 ・野菜+ネジ袋 ・軽作業班 	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル ・紙すき+陶芸+機織り+パン配達 ・公園除草委託作業 ・箱おり+ダンボール組み等 ・椎茸+腐葉土作り ・老人ホームの清掃等 ・企業へ出向いての選別作業 ・魚業の手伝い ・ともしび(レストハウス)

<ul style="list-style-type: none"> ・園芸 ・請負作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設外作業 ・作業（受託・自主） 	<ul style="list-style-type: none"> ・委託作業（トイレ、公園清掃）
時給151円～200円		
<ul style="list-style-type: none"> 2件・請負作業 1件・手芸 ・木工 ・継続B ・縫工班 ・農耕班 ・就労継続B ・畑作業 ・農芸受託 	<ul style="list-style-type: none"> ・菓子加工 ・果樹 ・メンテナンス ・電気部品組立 ・公園清掃作業 ・洗車作業 ・紙すき班 	<ul style="list-style-type: none"> ・クリーニング+清掃+農園芸+工芸+製パン ・銅線皮膜取り作業 ・割箸の袋入れ作業 ・作業参加半分位 ・洗浄棟 ・箱折り ・珍味加工
時給201円～250円		
<ul style="list-style-type: none"> 1件・居室清掃 ・ウェス ・農耕作業 ・手芸 旅館浴室清掃 	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオディーゼル燃料製造回収 ・ゴルフ場コース管理下請け ・EMボカシ作業 ・しいたけ栽培等 ・きのこ栽培+園芸 	
時給251円～300円		
<ul style="list-style-type: none"> 1件・リサイクル ・ハーネス作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルミ缶つぶし+受託請負作業 ・室内作業（ウェス切り+スポンジ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・就労継続支援B型（下請け）
時給300円代		
<ul style="list-style-type: none"> 1件・農耕 ・食器洗浄 ・手芸作業 ・作業活動 ・油回収 ・農園班 	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所売店売子 ・銘石+銘木 ・清掃請負等 ・受託作業班 ・アルミ缶つぶし ・事業所外での実習（委託業） 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般廃棄物処理
時給400円代		
<ul style="list-style-type: none"> 1件・保育園清掃 ・墓地の清掃活動 ・園芸作業 ・コンクリート製品の製造 ・受託請負作業 		
時給500円代		
<ul style="list-style-type: none"> 1件・織物作業 ・清掃作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・回収作業 ・火山礫袋詰め（3名）
時給600円代		
<ul style="list-style-type: none"> 2件・受託請負作業 1件・公園作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・農耕作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車部品ヤスリがけ+ねじ袋詰め
時給700円代		
<ul style="list-style-type: none"> 1件・分別班 	<ul style="list-style-type: none"> ・色紙の袋入れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き缶+解体作業
時給800円代		
<ul style="list-style-type: none"> 1件・委託班 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃班 	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内班 ・洗濯班
時給1,000円代		
<ul style="list-style-type: none"> 2件・農耕班 1件・軽作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・炭耕班 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気部品の組立て
時給2,000円代		
<ul style="list-style-type: none"> 1件・クリーニング 	<ul style="list-style-type: none"> ・就労継続支援 	
時給5,555円		
<ul style="list-style-type: none"> 1件・受託請負作業 		

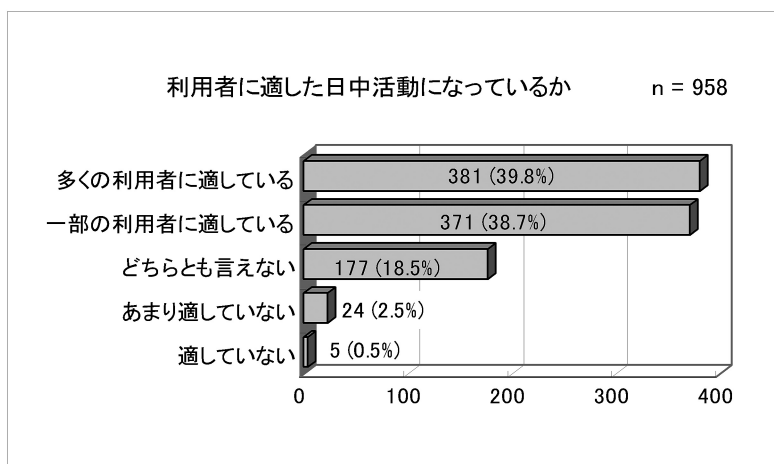
問 15 現在の日中活動は、利用者に適しているか。

現在、貴施設で提供している日中活動は、多くの利用者に適した日中活動となっていると思いますか。

1. 多くの利用者に適している
2. 一部の利用者に適している
3. どちらとも言えない
4. あまり適していない
5. 適していない

多くの利用者に適している」が約4割、「一部の利用者に適している」も約4割を占めている「適していない」「あまり適していない」の合計は3.0%となっており、適していない日中活動は、当然であるがなされていないことがわかる。

図表22



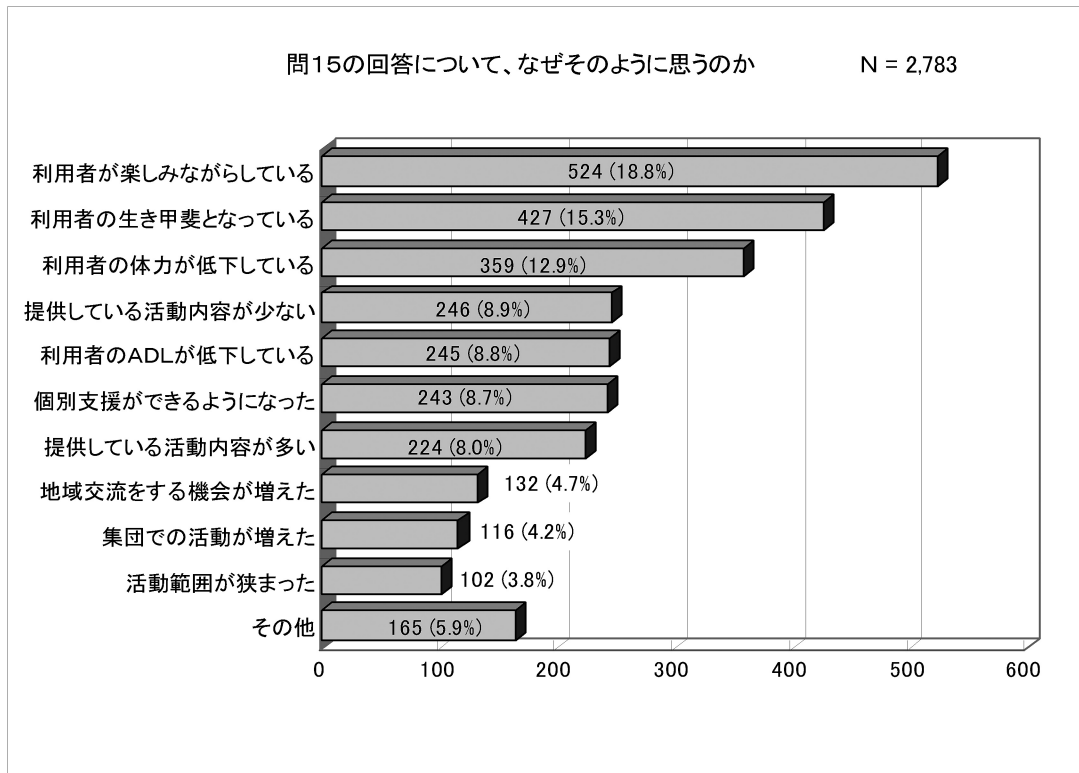
問 16 問 15 の内容についてなぜそのように思うのか（複数回答可）。

問 15 の回答について、なぜそのように思うのか教えてください。複数回答可

1. 利用者の生きがいとなっている
2. 提供している活動内容が多い
3. 個別支援ができるようになった
4. 利用者が楽しみながらしている
5. 地域交流をする機会が増えた
6. 利用者の体力が低下している
7. 利用者のADLが低下している
8. 提供している活動内容が少ない
9. 活動範囲が狭まった
10. 集団での活動が増えた
11. その他（ ）

答えは、プラスの評価が、「利用者が楽しみながらしている」（18.8%）「利用者の生き甲斐となっている」（15.3%）「個別支援ができるようになった」（8.7%）「提供している活動内容が多い」（8.0%）「地域交流をする機会が増えた」（4.7%）となっており、59.7%を占めている。それに対してマイナスの評価項目は、「利用者の体力が低下している」（12.9%）「提供している活動内容が少ない」（8.9%）「利用者のADLが低下している」（8.8%）「活動範囲が狭まった」（3.8%）となっており34.4%を占めている。

図表 23



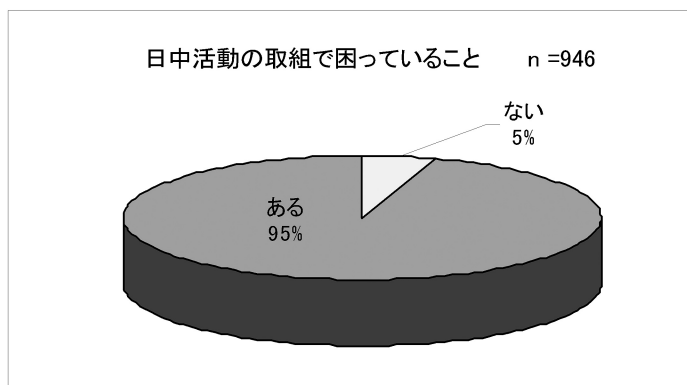
問17 日中活動に取り組む上で困っていることはありますか。

現在、日中活動に取り組む上で困っていることはありますか。

1. ある
2. ない

日中活動に取り組む上で、「困っていることがある」の回答が、93.9%を占めている。

図表 24



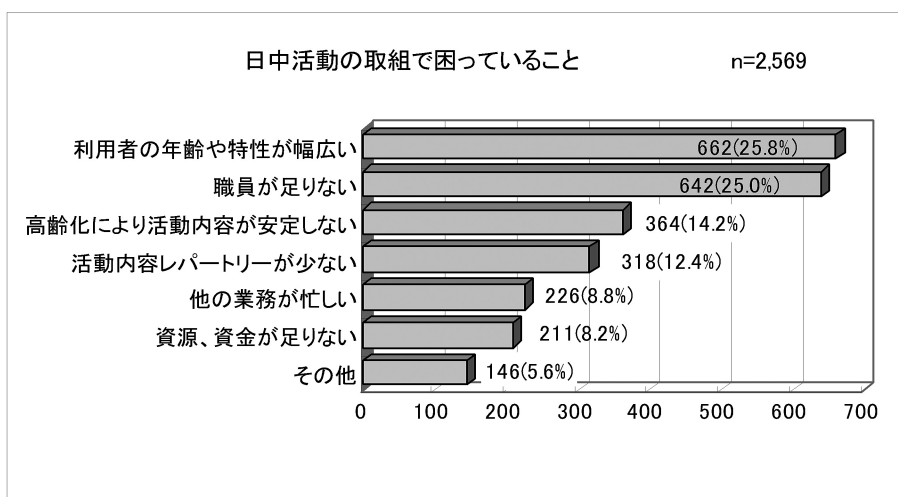
問 18 困っていることは何ですか。

問 17 で「1. ある」と答えた方にお伺いします。困っていることはどんなことですか。
(複数回答可)

1. 職員が足りない
2. 活動内容のレパートリーが少ない
3. 高齢化により心身機能の変化が著しく、活動内容が安定しない
4. 利用者の年齢や特性が幅広い
5. 資源、資金が足りない
6. 他の業務が忙しい
7. その他 ()

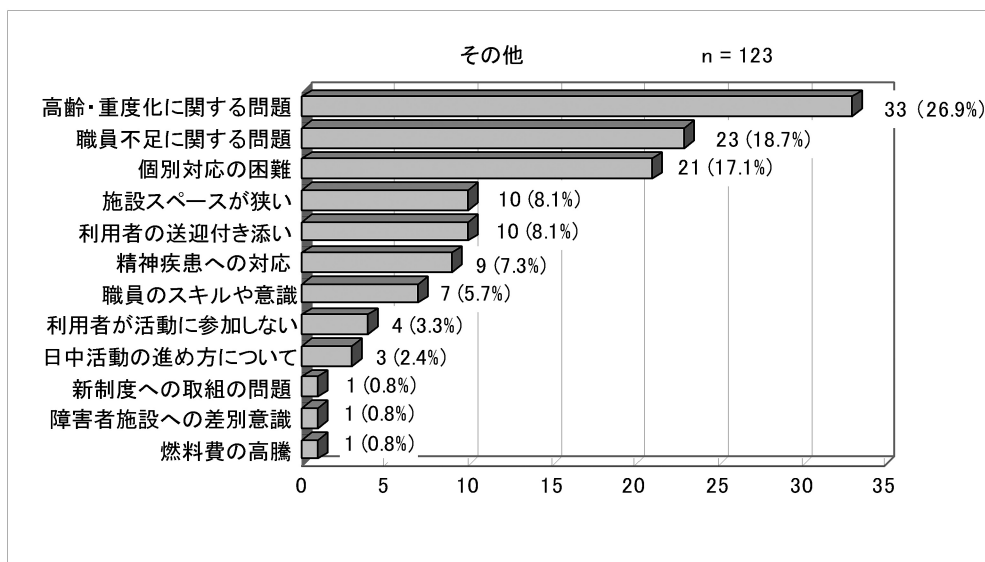
日中活動に取り組む上で困っていることは、「利用者の年齢や特性が幅広い」(25.8%)と、「職員が足りない」(25.0%)の2つで約半分を占めている。

図表 25



以下、その他の内容である。「高齢化、重度化に関する問題」(26.9%)の記述回答が、3分の1を占めている。そして、「職員不足に関する問題」(18.7%)の記述回答と続いている。

図表 26



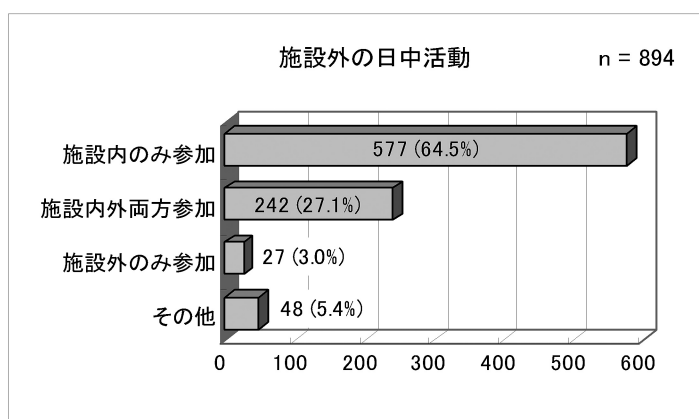
問 19 施設内での日中活動以外に参加している日中活動

現在、貴施設の利用者は、貴施設内での日中活動以外（施設外の日中活動）にも参加している日中活動はありますか。なお、本調査でいう「施設外」とは、①他の法人施設 ②同一法人の他種施設とします。

1. 施設外の日中活動のみ参加している
2. 施設内外両方の日中活動に参加している
3. 施設内の日中活動のみ参加している
4. その他（ ）

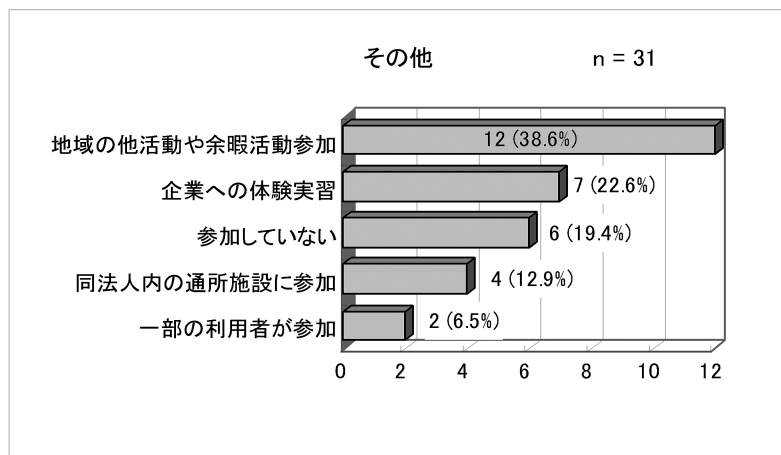
施設内のみで日中活動を行っている施設が 64.5%を占め、日中活動の場が外に広がっていないことが分かる。

図表 27



以下、その他の内容である。

図表 28

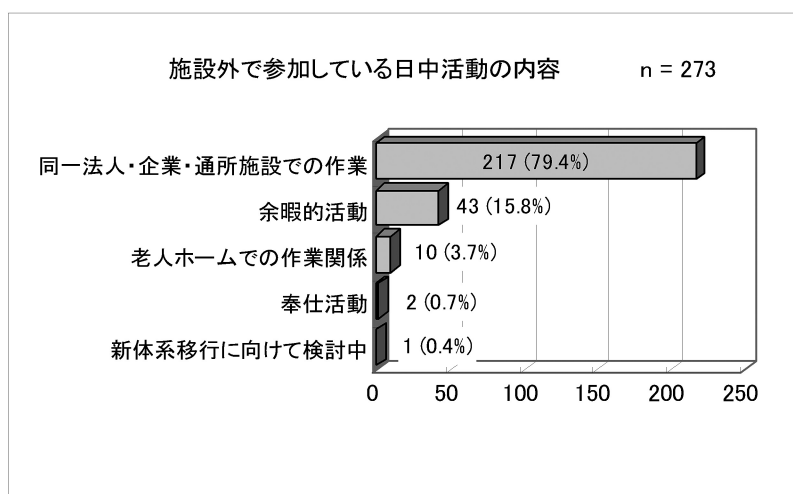


問 20 施設外で参加している日中活動の内容

問 19 で「1. 施設外の日中活動のみ参加している」「2. 施設内外両方の日中活動に参加している」と答えた方にお伺いします。施設外で参加している日中活動の内容を教えてください。

施設外での日中活動は、同一法人の施設、企業、もしくは他の施設の通所施設であることが分かった。これが約8割を占める。

図表 29



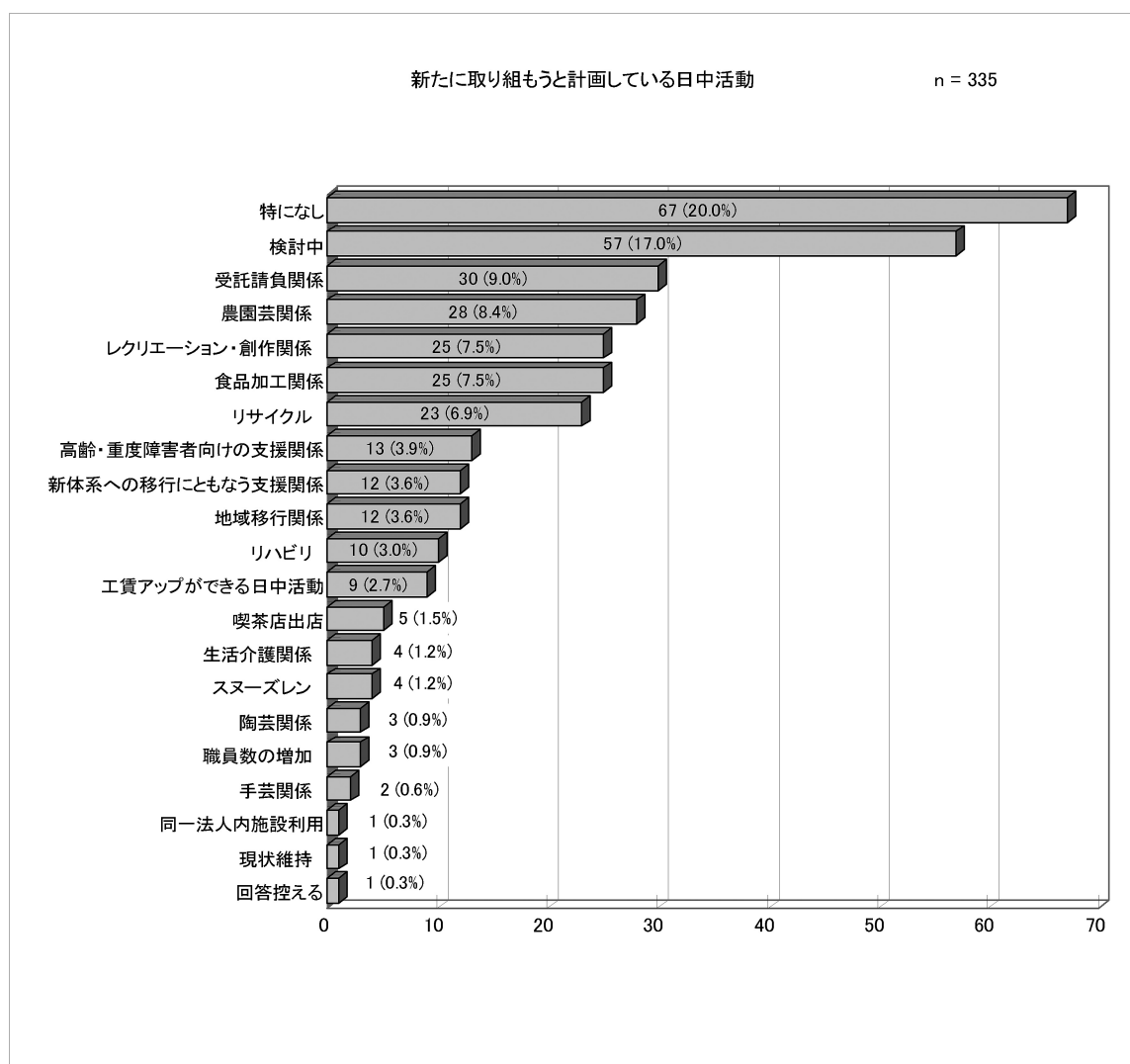
問21 新たに取り組みようとしている日中活動

今後、新たに取り組みようと計画している日中活動がありましたら教えてください。

この間について回答があった施設は、335施設と（アンケートに回答して頂いた施設の）34.9%である。

「特になし」と「未回答」をあわせると124施設（71.8%）と多くの施設が検討の段階にないことをうかがわせる。また検討している施設においても、具体的に計画している施設は22.1%と少ない状況であることがわかる。

図表30



3-2. 数量化3類を用いた施設の日中活動に対する態度分析

本調査結果を用いて、数量化3類による多変量分析を行った。数量化3類では、本調査のような質的調査の分析する事に適した分析方法であり、質的データを分析し、調査対象施設の態度構造の分析を行うことが可能な分析手法である。ここでは、数量化3類を用いて、態度構造の分析を行う。

本調査で重要となるのは、1)日中活動に対してどのような態度が存在するのか、2)「新体制」に移行した施設(移行群)と、移行していない施設(未移行群)との間に態度の差異が存在するのかという点である。ここではその2点に対して分析を行う。

数量化3類を用いた分析において、各質問に対する頻度分布に偏りがあるものは項目として使用することができない。態度構造を明らかにする場合、頻度分布に高い偏りがある項目は全体の態度の方向性を検討する事には利用できるが、逆にその項目を利用して、調査対象施設の個々の態度の違いを説明することはできないためである。本分析では、基本的に頻度分布として片方の頻度が8割以下になる項目を抽出し分析を行った。

また、調査対象施設全体の態度構造を分析する際に、移行群と未移行群では質問内容が異なるので、異なる部分に関しては除外してある。また、移行群と、未移行群のそれぞれで態度構造に違いがあるかの検討も行った。

3-2-1. 分析対象

本件の分析に当たり、下記に使用した項目数と調査対象施設数を示す。分析の関係上、使用した項目に対して未記入項目がある調査対象施設や全ての項目に反応がない調査対象施設は除外した。

分析に使用した項目数と調査対象施設数

図表 31

	項目数	調査対象施設数
全体	27	768
移行群	33	118
未移行群	34	653

3-2-2. 数量化3類の分析による固有値の分析結果

下記にそれぞれの群において数量化3類の解析結果の固有値を示す。

固有値の結果

図表 32

	第1軸	第2軸	第3軸	第4軸
全体群	0.2396225	0.1331429	0.1237359	0.1157297
移行群	0.1844568	0.1250009	0.1037210	0.0909747
未移行群	0.1666642	0.0982542	0.0963304	0.0785244

数量化3類ではそれぞれの固有値に対してどれだけの意味をもつかの検討が必要となる。数量化3類では固有値に大きな変化があるところを境に検討を行う。分析結果より、全体群、移行群、未移行群共に第1軸の固有値が極端に大きな値を示している、このため、日中活動に対する態度は第1軸のみで分析できることがわかった。

3-2-3. 態度分析について

次に数量化3類による調査対象施設の態度構造の分析を行う。

数量化3類では、調査の結果、似た反応を示す項目を近くに、似た反応を示さない項目を遠くに位置するような結果が得られ、その項目の配置によって項目のグルーピングが可能となる。そこで、数量化3類ではそのグルーピングされた項目の内容を検討することにより、態度構造を明らかにする。また、態度構造に意味を持つ項目(態度的に分化している項目)は原点付近から遠い位置に存在し、態度構造的に意味を持たない項目(態度的に未分化の項目)は原点付近に位置する結果が得られる。そこで、数量化3類では態度構造の分析に当たり、原点から遠い位置に位置する項目に着目し態度構造の分析を行うこととする。

3-2-4. 移行群、未移行群の全体の態度分析

最初に、移行群と未移行群を足しあわせた全体の分析結果を示す。まず、項目に関するカテゴリスコアについて記述を行う。

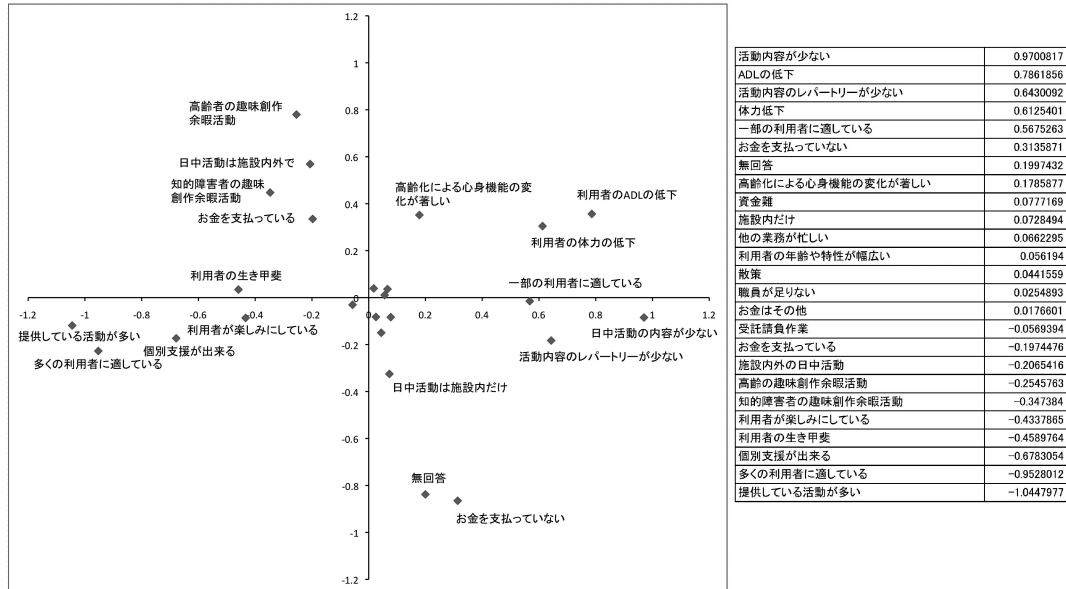
グラフでは数量化3類の分析により得られた第1軸の結果を横軸に、第2軸の値を縦軸に用いてグラフを作成している。これは表記的に判りやすくするためである。第2軸の縦軸方向の位置の意味は小さいため、その位置関係は考慮しない。ここでは、第1軸に関してのみ分析を行う。

全体の態度構造では、日中活動に対して横軸のプラス方向に対して、「日中活動の内容が少ない」、「利用者オADLの低下」、「活動内容のレポトリーが少ない」、「体力低下」、「一部の利用者に適している」といった「ネガティブな態度」の項目が多い、一方、横軸のマイナス方向では、「提供している活動が多い」、「多くの利用者に適している」、「個別支援ができる」、「利用者の生き甲斐を感じる」、「利用者が楽しみにしている」といった「ポジティブな態度」の項目が多い。これより、日中活動に対して「ネガティブな態度」と「ポジティブな態度」に態度が分類できる事が判明した。

また、数量化3類でそれぞれの調査対象施設がどの態度を示しているかを分析することができる。基本的に数量化3類では軸のプラス方向、もしくはマイナス方向において大きな値をもつ調査対象施設は逆の位置に示される項目については反応がほとんどない傾向がある。これを考慮に入れた場合、ポジティブな態度をもつ施設はネガティブな態度をほとんどもたないことになる。逆も同様である。この結果より、日中活動に対して、積極的に対応しており、その結果として、日中活動に満足しており、利用者にとっても有意義なものであると考えている施設と、日中活動について不満を感じており、利用者にとっても必ずしも有意義ではないと考えている施設に態度を2分することができる事が判明した。

全体群のカテゴリスコア

図表 33



次に、全体において、移行群と未移行群の間で態度に違いがあるかの検討を行った。

数量化3類では分析により得られたカテゴリスコアに対し、調査対象施設（本調査の場合は「施設」）がどの態度を示しているかを分析することができる（個人スコア）。カテゴリスコアと同様に原点付近に位置する調査対象施設は未分化であり、本調査からは態度を明確化できない。一方、周辺に位置する調査対象施設（分析によって得られた値の絶対値が大きい調査対象施設）の態度は分化しているため、本調査から態度を明確化することができる。つまり、態度が分化している調査対象施設を比較することにより移行群と未移行群の本調査による態度の違いを明らかにする。

本分析では、分析をおこなうために、得られた1軸の個人スコアの結果から上位100位の施設（1軸において最も大きな値を示した施設から100施設。つまり、ネガティブな態度を示している100施設）と下位100位の施設（1軸において最も小さい値を示した施設から100施設。つまり、ポジティブな態度を示している100施設）を抽出し、その分布を比較した。その結果を下記に示す。

本分析で使用した施設は移行群が118施設（15.4%）、未移行群が650施設（84.6%）である。これより、移行群、未移行群で日中活動に対して態度の差異があるかどうかを本調査からは判断することができないことが判った。

全体の個人スコア

図表 34

	上位（ネガティブ側）		下位（ポジティブ側）	
	施設数	割合	施設数	割合
未移行群	86施設	86%	84施設	84%
移行群	14施設	14%	16施設	16%

次に数量化3類による分析結果より得られた日中活動に関する態度構造において、各施設が日中活動に対してどのような態度を示しているかの検討を行う。下記に1軸における個人スコアの結果の上位20位(1軸において最も大きな値を示した施設から20施設)と、下位20位(1軸において最も小さい値を示した施設から20施設)の施設が数量化3類で用いた質問項目の内、どの質問項目に反応しているかを示した表を記す。ここでの質問項目の順番は1軸の結果の小さい順に左から記載した。つまり、左側はポジティブ系の質問項目であり、右側はネガティブ系の質問項目である。また、各施設が反応した項目には「*」を記入した。

表から、ポジティブ系の質問項目の多くに反応している施設はネガティブ系の質問項目には反応が少なく、また、ネガティブ系の質問項目の多くに反応している施設はポジティブ系の質問項目の反応が少ないことがわかる。この結果から、ポジティブな態度を持っている施設はほとんどネガティブな態度を持たず、逆にネガティブな態度を持っている施設はほとんどポジティブな態度を示さないことがわかり、ポジティブとネガティブな態度で施設側を2つに分類することができることが判明した。

下位、上位20位の施設における反応の差異

図表 35

	項目																										
	← ポジティブ方向							ネガティブ方向 →																			
	提供している活動が多い	多くの利用者に適している	個別支援が出来る	利用者の生き甲斐	知的障害者の趣味創作余暇活動	高齢の趣味創作余暇活動	施設内外の日中活動	お金を支払っている	受託請負作業	お金はその他	職員が足りない	散策	利用者の年齢や特性が幅広い	他の業務が忙しい	施設内だけ	資金難	高齢化による心身機能の変化が著しい	無回答	お金を支払っていない	一部の利用者に適している	体力低下	活動内容のレパートリーが少ない	ADLの低下	活動内容が少ない			
1軸の上位に位置する施設										*							*	*	*	*	*	*	*	*	*		
									*				*		*			*	*	*	*	*	*	*	*	*	
								*				*		*		*		*	*	*	*	*	*	*	*	*	
									*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
									*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
							*		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
							*		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
							*		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
							*		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
							*		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
							*		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
							*		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	1軸の下位に位置する施設	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
*		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
*		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
*		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
*		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
*		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
*		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
*		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
*		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
*		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
*		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	

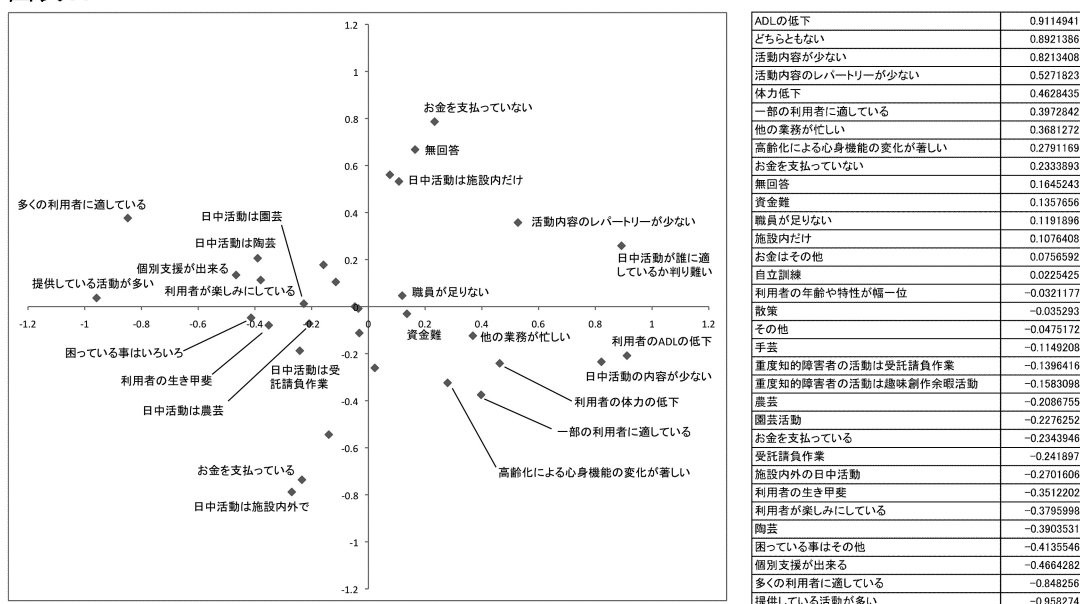
3-2-5. 移行群の態度分析

次に、移行群の態度構造を下記に示す。

分析結果より、全体と同様に日中活動に対してプラス方向では、「ADLの低下」、「活動内容が少ない」、「活動内容のレパートリーが少ない」、「体力低下」、「一部の利用者に適している」、「多くの業務が忙しい」といった「ネガティブな態度」をもつ傾向があり、一方、マイナス方向では、「提供している活動が多い」、「多くの利用者に適している」、「個別支援が出来る」、「利用者が楽しみにしている」といった「ポジティブな態度」を持つ傾向がある事が判明した。また、移行群に特有となる項目は原点付近に集まる傾向にあることが判明したため、本調査からは移行そのものが態度には大きく影響を与えていないことが判明した。

移行群におけるカテゴリスコア

図表 36



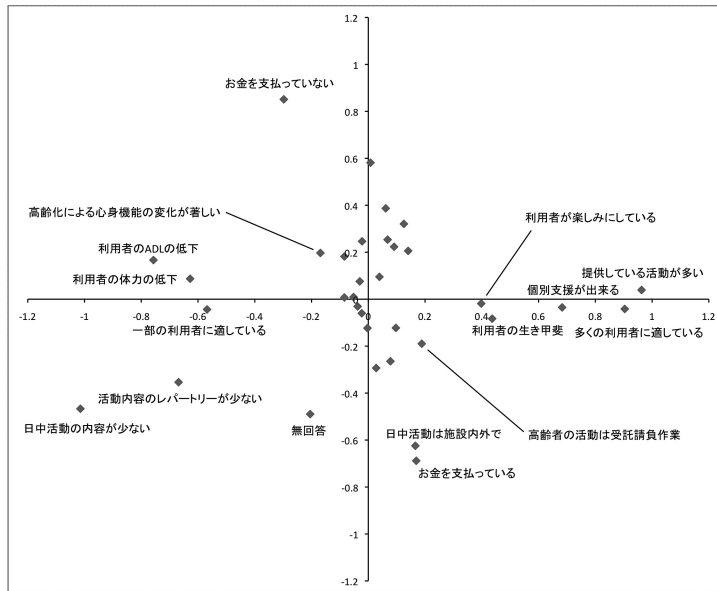
3-2-6. 未移行群の態度分析

次に、未移行群の態度構造を下記に示す。

分析結果より、プラス方向では「提供している活動が多い」、「多くの利用者に適している」、「個別支援が出来る」、「利用者の生き甲斐」、「利用者が楽しみにしている」といった「ポジティブな態度」を持つ傾向があり、マイナス方向では、「活動内容が少ない」、「ADLの低下」、「活動内容のレパートリーが少ない」、「体力低下」、「一部の利用者に適している」といったネガティブな態度を持つ傾向があることが判明した。未移行群は全体群、移行群と逆の位置に関係を示しているが、項目の内容的なものは変わらないので、同じ結果が得られているものと判断ができる。

また、未移行群に特有となる項目は原点付近に集まる傾向にあることが判明し、本調査課からは未移行群特有の項目は態度に影響を与えない事が判明した。

図表 37



提供している活動が多い	0.9629356
多くの利用者に適している	0.9036909
個別支援が出来る	0.683129
利用者の生き甲斐	0.4365405
利用者が楽しみにしている	0.3979616
高齢者の活動は受託請負作業	0.1883904
お金を支払っている	0.1689097
施設内外の日中活動	0.1658003
重度知的障害者の活動は農芸	0.1404586
陶芸	0.1253872
その他	0.0972063
園芸関係	0.0908827
重度知的障害者の活動は受託請負作業	0.0780197
手芸	0.068032
木工	0.0613946
農芸	0.0392464
受託・請負作業	0.0276995
高齢者の活動は手芸	0.0077933
他の業務が忙しい	-0.0028925
重度知的障害者の活動は散策	-0.0217897
職員が足りない	-0.023095
散策	-0.0300812
資金難	-0.0375504
お金はその他	-0.0519596
施設内だけ	-0.0842075
利用者の年齢や特性が幅一位	-0.0843318
高齢化による心身機能の変化が著しい	-0.1687949
無回答	-0.2048459
お金を支払っていない	-0.2977662
一部の利用者に適している	-0.5681438
体力低下	-0.6278213
活動内容のレパートリーが少ない	-0.6685569
ADLの低下	-0.7570498
活動内容が少ない	-1.0144829

3-2-6. 数量化3類による態度分析のまとめ

本調査より、数量化3類を用いて分析を行った結果、日中活動に対して、ポジティブな態度を示す施設とネガティブな態度を示す施設があることが判明した。ポジティブな態度を示す施設ではネガティブな態度をとるということはなく、多種類の日中活動の項目を用意したりして、積極的に日中活動を行っている傾向にある。一方、ネガティブな態度を示す施設では今行っている日中活動に対して疑問、もしくは不満を持っており、その影響によりポジティブな日中活動ができ難い状態になっていると思われる。利用者にとって日中活動は日常の生活のために必要な技能を身につけるためには重要な活動であると考えられている。そこで、ネガティブな態度を示している原因を更なる調査をすることにより、その原因を突き止め、今後、ネガティブな態度を示す施設に対して、支援をする体制が重要であると考ええる。

また、本調査から、新体制に移行した施設と、移行していない施設との態度の違いの検討を行ったが、移行したか、していないかによって明確な態度の違いは判断する事はできなかった。これにより、移行するかしないかは、それぞれの施設の日中活動に対する態度ではなく、他の要因があると考えられるが、本調査からは判断することはできなかったため、更なる調査が必要であると考ええる。

4. 好事例事業所等の見学報告

4-1. 施設見学報告書

見学日：平成20年12月3日（水）

見学先：A園

見学者：○生活支援部第2課はまゆう寮 渡邊 守
生活支援部第1課やまぶき寮 石坂 和久
生活支援部第2課 こぼと寮 安野 絵美子
企画研究部研究課 村岡 美幸

I. 施設概要

開所年：1994年（平成6年）

施設種別：障害者支援施設

定員：施設入所支援（118名）

生活介護（140名）

短期入所（2名）

規模：敷地面積 14,504.47m²

建物面積 8,065.15m²

併設機能：診療所（内科・精神科・歯科）、研修・研究部門

施設の特徴：利用者平均年齢：65歳（最高84歳）

利用者死亡状況：年間6～7名。平成6年の開所からは44名。

ケアホーム数：9ヶ所（利用者35名）

障害程度区分：4以上

強度行動障害や自閉症の利用者数：いない

*入所利用者は、同一法人施設

(a園・b園・c園)からの移行

施設の方針：平成23年度までに…

①入所利用者を118名から100名程度まで減

②現在、個室：2人部屋＝1：2となっている。

これを、全室個室としたい。

高齢の方や車椅子の方のケアホームへの移行も積極的に行っている（移行した方の最高年齢：77歳）。

II. 日中活動について

1. 活動内容

日中活動は主に日中支援課が中心となって、実施している。A園は利用者一人ひとりの生き甲斐につながるよう、様々な日中活動プログラムを提供している。その日中活動は、利用者個々の好みに合わせて実施している。また、作業で得た売り上げ金については、参加した利用者とその回数に応じて還元している。日中活動への参加は自由となっており、本人の気持ちを尊重しながらプログラムを組み立てている。

日中活動は、以下のような内容となっている。

<作業として>

・ろうそく作り

①材料：斎場や結婚式場から使用済みのろうそくを無料で分けてもらっている。
着色用のクレヨン、芯は購入している。

②価格：一つ150円～300円

*冬（クリスマス）の時期は、特に売れるとのこと。

・アルミはがし

①材料：工場等から出る物を回収（紙とアルミがくっついたもの）

②作業：紙とアルミを別々にする。

③価格：1キロ 15円（以前は1キロ30円だったが値下がりました）

・ステン板のカバーはずし

<その他の活動として>

・マッサージ

近所の按摩マッサージ師に来てもらい実施。

①料金：医療保険にて、15分1500円

②頻度：週1回

・体育館レク（歌や踊り）

①レクリエーションワーカーに来てもらい実施。

②謝金：あり

・ボランティア交流

①中学生：レクリエーション

②小学生：プール掃除

・習字、絵画

①先生に来てもらい実施。

・映画会

①月3回程度

・陶芸、創作活動

2. 高齢知的障害者の日中活動

利用者の平均年齢が65歳であることから分かるように、作業種も高齢の利用者でも出来るよう、単純で無理なく行えるような作業が多く設けられていた。さらに、日中活動が作業だけでなくマッサージやレクリエーション、映画会等の機会を多く設けており、「ゆとり」を大事にした生活スタイル（活動内容）となっていた。

3. その他

日中活動以外にも、参考になった点を以下に挙げる。

<給食に関して>

- ・栄養士（常勤も非常勤も）が寮の食堂に来て、一緒に食事をとりながら利用者個々の食事状況を見ることにより、利用者の嗜好品などを細かく把握していた。
- ・常温でも溶けないゼリーを使用している。（摂食嚥下リハビリ学会などに積極的に職員を派遣し、そこで得た情報を実践の場に取り入れていた。）
- ・年3回、全利用者を対象にして、体育館でバイキングを行っていた。（準備は全て、栄養調理課が行っていた。）
- ・栄養調理課主催の「お食事会」を開催していた。（利用者を招待して行っていた。）

<ケアホームに関して>

- ・ケアホームを建設する際、地元のJAが仲介に入っているため、地域住民や大家さんの理解や協力が比較的得られやすい。また、契約条件等も緩和してくれているとのことだった。（20年契約のところを5年契約で可としてくれている。）
- ・利用者の持っている財産や収入に応じて、住む環境を決めているとのことだった。

<近隣施設との交流について>

- ・徒歩10分程度、離れた所にある施設、紅梅園（知的障害者更正・授産施設）との交流が深く、互いの利用者が互いの施設へ行き、清掃業務などを行っていた。

III. まとめ

今回、A園を見学して感じたことは、周辺の施設等との連携が良く取れているということだった。就労支援の一環として、近隣施設の清掃業務を行い、反対に近隣施設の利用者がA園で働く。こういった近隣施設との連携による活動は、活動内容の広がり、また活動機会の増加をもたらすのではないかと考える。この活動は、当施設でも実施できることではないかと思った。

また、マッサージ師（按摩師）やレクリエーションワーカーを呼んでの活動は、専門家による質の高いサービスの提供に繋がるだけでなく、利用者にとって「楽しみ」や「安らぎ」の機会になると考える。A園の職員の方の話で、「利用者とのマッサージさんの1対1の関係が、利用者にとって安らぎの時間ともなっています。」とのことだった。現在、当施設でも、平成21年1月から新たな日中活動として、足の浮腫みや冷えなどからマッサージを必要としている利用者を対象に、試行的に専門家による足浴、アロママッサージを実施しているところである。マッサージ後は、一時的ではあるが足の血色も改善され、血行が良くなったように感じられた。また、アロマによる香りは気持ちを明るくしたり、緊張を解きほぐしたりするなどの作用があり、心身共に健やかに働きかけてくれる効果も含んでいる。多くの部分で利用者「癒し」を与えられるものだと感じた。のぞみの園においても、車いすでの生活を余儀なくされる利用者が増え、更に高齢化に伴い今後も医療的なケアを必要とする利用者の増加が予測されるため、このように利用者の体と心が暖まるような活動は、今後も必要不可欠ではないかと思う。

さらに、ろうそく作り（再加工）であるが、この活動は、原材料を無償で提供してもらっているため、「コストがかからない」というメリットがある。夏場はあまりろうそくのニーズが無いことから、通年で作業を実施するのではなく、シーズン中のみ（秋冬のみ）時期を限定した作業をするのも良いのではないかと思った。

最後に、A園の日中活動は、バリエーションに富んでいる印象を強く受けた。また、単に活動のバリエーションを増やしているのではなく、活動ごとの頻度等を、高齢である利用者の負担にならないよう検討し、1ヶ月毎のスケジュールを組んでいた。当施設でも、これまでは、作業的な活動が日中活動の多くを占めていたが、高齢や重度の利用者の増加に伴い、平成21年1月より、作業的な活動以外の日中

活動として、カラオケやマッサージ等を組み込み、より多くの利用者が参加できるよう取り組んでいるところであるが、まだ取り組みを始めたばかりで、職員の体制や他寮との連携、活動内容を試行錯誤している状況である。

寮を超え一人でも多くの利用者の特性を知り、有機的な連携を図りながら、利用者の日中活動支援が行えるよう、努めていく必要性を感じた。

4-2. 施設見学報告書

見学日：平成20年12月15日（月）10：00～12：00

見学日：B園

見学先：○高橋直（やまぶき寮） 関口智絵（もくれん寮） 松永研究課長

I. 施設概要

昭和24年4月 戦災孤児を保護する養護施設として発足。

昭和38年4月 精神薄弱者更生施設B園を開設する。

昭和43年4月 児童施設と成人施設を合併し、B園が発足となる。

平成11年4月 社会福祉法人東京都社会福祉事業団の受託施設に属し現在に至る。

定員：総計306人（児童：156人 成人：150人）

<知的障害児施設の運営>

定員：156人（平均年齢：約15歳）

低年寮：2ヶ寮（18人×2）36人（3歳～小学4年生まで）※幼児は各寮6名

高年寮：5ヶ寮（24人×5）120人（小学5年生まで）

児童自活寮：14室（高年児寮入所児童の地域生活移行事前訓練の場として活用）

障害の程度：およそ1/3が重度

<知的障害者更生施設の運営>

定員：150人（平均年齢は51.6歳 最高齢は83歳）

生活支援寮：6ヶ寮（1ヶ寮23～25人）

地域移行寮：定員12人以内（利用者の地域生活移行支援を目的に運営）

障害の程度：もともとは中軽度の利用者を対象とした施設であったが、現在は約1/3が重度であり、加齢に伴い歩行の困難な利用者が増加している。

※高齢者のみが対象となっている寮は設置していない。また全ての寮が男女混合にて運営

<その他の事業>

- ・ 短期入所事業
- ・ 就労移行支援事業（外部利用者を対象）※年間、5名程の就職実績あり。
- ・ 市の授産事業地域連携システム
- ・ グループホーム・ケアホーム運営（3箇所）

- ・ 施設開放事業

II. 日中活動について

日中活動は、B園の活動援助係という部署が以下のような活動を実施している。

<対象者>

- ・ 成人施設利用者全員
- ・ 児童施設利用者のうち高等部を卒業した児童年齢超過者及び学齢前の幼児

日中活動は、月～金曜日の週5日、午前9:00～11:30 午後13:00～15:30（昼食は寮にて食べる）の時間帯に行われ、B園の全ての利用者約200人（成人150人、高等部卒業の加齢児40～50人、就労支援15人、就学前日中保育12人）が通っている。

<送迎>

日中活動の送迎は、往きは生活寮、帰りは活動援助係の職員が行っている。現在、B園では加齢に伴い歩行が困難な利用者が増えて、車椅子使用が増加傾向にある。施設は多摩地方の丘陵地帯に立てられているため、坂道の上下が多く、利用者の移動は個別に職員が一人付いて車椅子にするか、一人ひとり時間をかけて職員が見守る中、歩いていくのかのどちらかで、個別に送迎の必要な利用者が増えている。これが課題の一つとなっている。

<工賃>

工賃は活動班によって違いがあるが、毎月約2000～3000円程度支給している。訓練的な内容で参加している利用者にも、毎月のお小遣いとして決まった額を支給している。

<活動内容>

利用者のニーズや身体状況や障害程度に合わせ、以下の活動班がある。

- 1) 自立援助系：「就労支援」「実習支援」（2グループ）
- 2) 授産活動系：「手工芸班」「智剣班」「培養土班」「紙加工班」（4グループ）
- 3) 高齢者専科コース：「いきいきプラザ」「あしたば班」（2グループ）
- 4) 行動障害専科コース：特別活動グループ（午前：畑作業 午後：小グループ活動）
- 5) 幼児保育系：グループ保育 近隣との交流保育

<高齢重度知的障害者の日中活動>

活動班のうち「いきいきプラザ」「あしたば班」の2班が、60歳以上の高齢者や虚弱な利用者向けの活動を提供している。

①「いきいきプラザ」（H18年開設）

定員：28名

60歳以上や虚弱な利用者を対象に、高齢・虚弱向けの活動を行う。

活動内容

<午前>集団活動

ストレッチ体操、レクリエーション（球技ゲーム等）、シルバー活動（理学療法）、健康体操、ダンス等。

<午後>個別活動

趣味的活動…本人の希望に合わせ、手工芸・工作・絵画・貼り絵・シール絵、

塗り絵等を行う。

あいおい活動・活動曜日ごとに専任講師により、書道・美術・レクリエーション・音楽リトミック等を実施。

※講師は地域の学校、大学等から招聘している。

非常勤講師 10 人（音楽3、リトミック2、リズム遊び1、体育レク1、書道1、絵画1、ミシン1）

②「あしたば班」（H20年4月開設）

定員：20名

60歳以上の比較的元気な高齢利用者が所属している。

活動内容

<午前>

4つの授産班（紙加工・手工芸・智剣・培養土）で作業に参加。

シルバーと呼ばれる理学療法（※理学療法士による）

<午後>

あしたば班とあいおい活動に参加する。

上記、2つの班を中心に利用者の身体状態や活動ニーズに合わせて、活動内容と利用者のグループ設定を柔軟な組み合わせ・構成に出来るようにしている。また、利用者同士の相性等にも考慮して班構成をしている。

Ⅲまとめ

現在のB園の日中活動のあり方を検討し始めたのは、約10年程前との事であった。支援理念に「利用者本位で満足度が高く、専門的な視点を持ったサービスを提供すること」を掲げ、利用者満足度調査などを行うことで利用者の特性やニーズを的確に把握することに努め、その結果は、利用者のニーズに応えるために施設の支援体制改革や支援計画作成に反映させた。利用者ニーズは多岐に渡るため、そのニーズに応えるには、可能な限り柔軟な対応が出来る仕組み作りが求められる。そのため、現在の形態に変革させるには10年という長い期間と様々な困難があったとの事だった。新たな活動へ向けての職員の意思統一や、利用者ニーズを満たすためサービスを提供する組織作りに時間を要したということである。

活動内容についても、既存の活動内容を見直すとともに、地域特性を活かし地域に密着した新たな作業種の開拓や、近隣地域のボランティア（講師や学生など）を活用した日中活動の充実など、新たな活動を作り出している。

高齢重度知的障害者の日中活動についての取り組みでは、「いきいきプラザ」は3年前、「あしたば班」は今年より始まり現在に至っている。両グループともレクリエーションやリハビリ的な活動を中心に、ボランティアを積極的に活用することで活動内容のバリエーションが豊富であった。また高齢重度であっても「やりがい・生きがい」として少額でも賃金等の対価を設けていることで、生活や活動の励みになっているとの事だった。

以上のような取組の結果、B園で現在行われている日中活動は、利用者個々に合ったサービスを提供しているとして、第三者評価機関から高い評価を得ているとのことであった。

このように「職員の意識改革」「利用者の特性・ニーズの把握」「柔軟な日中活動支援の行える体制作り」「社会資源の活用」が、その時々利用者の状態像に合わせて充実した日中活動を生み出し継続させていくために不可欠なのだと強く感じた。

4-3. 施設見学報告書

日時：2008年11月26・27日

場所：C会

見学者：研究課 樋口幸子

○生活支援部第2課すぎ寮 矢島佳代子

I. 施設の概要

*第1種社会福祉事業（施設入所支援）旧体系

- ・知的障害者入所授産施設 定員 50名
 通所分場 定員 10名
- ・知的障害者入所更正施設 定員 50名
- ・知的障害者通所授産施設 定員 28名

*第2種社会福祉事業 新体系

- ・障害福祉サービス事業—居宅介護事業
 行動援護事業
 重度訪問介護事業
 共同生活介護・援助事業
 (4ヶ所 18名)
 短期入所事業 定員 12名
 多機能型事業所
- ・相談支援事業

<C会の理念>

C会は本物の心使いのある場。利用者に安らぎと希望を与えるのが私たちの使命である。私たちの提供するきめ細やかで暖かな個別のサービスと洗練された環境が、利用者の望んでいるものに対し、深い満足をもたらす。

そしてC会での経験が精神的に高揚を促し、人格を向上し力強いバイタリティのようデイに貢献することを望んでいる。

II. 日中活動の取り組み

<C会の取り組み>

- ・カントリーレストランの経営
- ・手作りパン、焼き菓子の製造販売
- ・スパイスカレーの製造、卸、直売
- ・手作りクラフト、木工、和紙、縫製、陶芸

- ・自然農法での農業、養蜂、食品加工
- ・一般雇用への支援

以上をおもな日中活動として行い、さらに、音楽療法、リフレクソロジー（足裏療法）、環境森林療法などを定期的に取り入れて行っていた。

また、全室個室で少人数のユニットとし、食事や入浴は家庭的な雰囲気の中で行われていました。本人の体調に合わせた個別支援方法になっており、活動に参加できない利用者は職員と一緒に洗濯物をたたんだり、自分の気に入った場所で過ごしたりする姿も見られた。

<カントリーレストラン・パン・製菓>

奈良駅から車で30分、山の中のカーブを上りきったところにC会が運営するカントリーレストラン、ハーブクラブのログハウスがあり、2棟のログハウスのうち、1棟がカントリーレストラン、もう1棟はアウトドアメーカーのモンベルショップと通所授産施設「水間ワークス」となっていた。

水間ワークスでは、レストランで販売するパンやクッキー、また施設利用者のおやつを作り、袋詰めやラベル貼りなど職員と利用者が作業を分担して行っていた。販売している場所と隣り合わせのため、パンの売れ行きを常にチェックできるので余剰なく生産をしていた。パン部門では、元パン会社の社長が先頭に立ち、米粉や自然のものを使った安心でおいしいパンの開発・生産に力を入れていた。そういった点が消費者のニーズや購買意欲に見事つながり、好評とのことである。

山の中という大自然の雰囲気をうまく活かしたカントリーレストランは、店内の手作り感や温かみ、釜を使った料理や月毎に変化するメニューなど、また来たいと思わせる工夫があり、確実にリピーターを増やしているようだ。

ここでは、まずおしぼりと水、メニューを運ぶのが利用者の仕事で、来店してきた客の数にあわせておしぼりと水を用意していた。「いらっしゃいませ、お決まりになりましたらお呼びください。」と接客も板についていた。

注文を書く紙には、すでに料理名が記されており、注文を受けるとその料理名にチェックを入れる仕組みになっていた。また、その紙には‘飲み物は先・食事と・食事後’と記されており、客に聞いて丸をつけるようになっていた。コーヒー豆の量を測ったり、お皿を洗ったり、カウンターに出された料理をテーブルまで運んだり、それぞれが経験から学び取った自分の仕事をこなしていた。職員の話では、始めのうちは色々とトラブルがあったが、そのつど解決して今に至っているとのことだった。

このカントリーレストランは営業開始から8年が経過し、現在では年間2万5千人の来客があるとのことだった。年末年始2日間のみのお休みで、一日平均は68.8人の来客とのことだった。

みなさん、きちんと自分の役割がわかっている、言われなくても自分の判断で動いていることに感心した。

またこの場所では、クラフト班による作品の展示販売も行われていて、季節に合った和紙のポストカードや、それを飾る木製のカード立て、料理をのせるお皿や店内の装飾にいたる全てのものが手作りであり、作品であり、商品となっていた。

<手作りクラフト>

入所施設敷地内に作業所があり、アウトドアグッズのモンベルで扱う布製品の縫製、ポストカードやカレンダーなど和紙を使った製品の製作、百円ショップの下請けとしてプラケースの組み立てを行っていた。

縫製では、フリースの製品を作った際に出る端切れを使い、ぬいぐるみや小さなマスコットを作り、モンベルショップで販売していた。利用者は端切れをさらにはさみで細かく裁断する作業をして、C会

で作るぬいぐるみのなかに綿代わりに詰めていた。検針や納期があるため、しっかりと商品作りが求められている。

和紙作りは、雁皮という材料を使い、一枚ずつ手漉きで作られている。利用者は雁皮についている実をひとつずつ手で取る作業を行ったり、漉く作業を行ったりしている。実際、見学に寄ったときは作業休憩中だったため、利用者の活動場面は見られなかったが、ここで作られた和紙は、利用者が書いたイラストを載せ、商品として通信販売やポストカードの卸会社に卸されているとのことだった。

プラケースの組み立てでは、本体とふたに分かれて届いたものを、一つずつ本体にふたをつけていくという作業であった。他の人や周りが気になってしまう人用に、ついでで左右前方を仕切られたスペースが作られており、個人に合わせた対応をしていた。

木工は、現在、活動場所の工事のため仮施設として入所施設より車で10分程離れた元・建具家で行われていた。利用者は、木製のマスコットをやすりで磨く作業や、注文によって製作中の木箱の表面を機械で磨く作業、カヌーの色塗りなどを行っていた。

ここで作られたカヌーは、販売、レンタル、宿泊施設も経営していることから、泊りでのカヌースクールと、いろいろな役割を作り出していた。地の利を生かした展開方法をどんどん生み出していくことが、利用者の日中活動＝仕事を作り出していた。

宿泊施設である、通所分場「杣ノ川ワークス」では利用者が自然遊歩道を作り、環境整備を行っていた。今後は宿泊機能を充実させ、客室の清掃なども利用者の活動として行っていくとの事だった。

<入所更生施設>

全室個室で、みんなが集まる食堂には和室のスペースも作られてあり、明るく広々とした空間となっていた。

見学に行った時間はちょうど入浴前の時間で、一人ひとり入浴用品が入ったかごを用意し、浴室に移動していた。浴室の隣には、リフレクソロジーの部屋があり、2脚のリクライニングソファとアロマの噴射機、目の前の窓からは緑が見え、リラックスできる空間となっていた。リフレクソロジーは、職員が講習を受け、免許を取得し行っているとの事であった。各利用者、月に一度施術を受けられるようにスケジュールを立てているそうである。

その隣には、環境療法を行うヒーリングルームがあった。ゆったりとしたソファに座ると、目の前の壁に自然の風景を撮った映像が音とともに流れてゆき、照明も岩塩の中に電球を入れた間接照明で、ふんわりとした明るさの中、落ち着いた気持ちを作り出せるそうである。

この建物の一階部分では、アート・クリエイト活動が行われていた。感性豊かなアートたちは、ポストカードの挿絵になったり、モンベル社のTシャツの柄になったり、額に入れて作品となっていた。また、手工芸品は施設内に飾られたり、ハーブクラブで販売されたりしていた。利用者が描いたり切ったり張ったりしたものが、職員と一緒にちょっと手を加えることで作品や商品となっていく様は芸術的であった。

<C会の視点>

C会で作られ売られる製品は、利用者の作業から生まれてくるものであった。利用者一人ひとりの収入につなげていくためには、売れる製品を作り、収益を上げることが重要である。そして、自分の作ったものが売れる喜びを味わうことで、更なる意欲の向上につながっていくのである。

売れる商品とは、ニーズにあったもの、センスの良いもの、使ってよいもの、そういった点を考慮し、オリジナルを開発し続けているからこそ、C会の製品は売れているようである。

C会で作られたものは、どの製品をとっても、らしさ、にあふれていた。ここで作られたものたちは、どれも手作り感を大事にしたオリジナルであり、それでいて一般の市場で勝負できる洗練された商品であった。

常に、新しいものを開発し、またその過程にどう利用者がかかわり、そして売り方を工夫し、時には付加価値をつけて売れるものを考え出していくのである。

木工で作られているカヌーも、職員が講習を受け本格的なカヌーの作り方をマスターした上で、利用者 に作業してもらった部分と職員が手を加える部分を振り分け、モンベル社との提携により、きちんとした製作品として売り出されていきます。また、カヌーひとつでも、消費者に売ること意外に、レンタルに使うこと、宿泊施も運営していることからそこを使って一泊二日のカヌースクールを行うこと、と、売ってしまえばそこで終わるものを使用の幅を広めていく工夫がなされていた。また、そこからつながる人脈も大切な意味を持っているとのことであった。

施設長の話では、一次産業だけで収入につながるためには、大量に生産しなければならないが、二次の加工、三次の販売までを施設で手がけることによって、多くの人の手を介し、収入につなげていくことができる、これこそが利用者の仕事を作り出し、さらには一人ひとりに還元していけるとのことであった。

III. まとめ

C会の見学を通して、施設という枠を超えた運営の手法を見せていただいた。

利用者一人ひとりの作業が収入につながっていく様子は、施設の製品だからといった規定概念を取り払い、ひとつの企業として在り様を見ているようであった。利用者と職員の力を合わせて売れる製品を作り出す、製品を売り込んでいく、新しいものを開発する、クレームや失敗から学んでいく、発想の転換をして施設の周りの自然を商品価値とする、人のつながりを大事にする、そういった姿勢が、消費者を振り向かせているのではないだろうか。

また、利用者が地域に出て行くのではなく、地域の人が集まる施設でもあった。音楽ホールでのコンサートや、カントリーレストランでのイベントなどの開催、災害時の緊急避難所に指定されているなど、地域住民の拠点となっているようであった。

施設の特性を活かしたイベントの開催など、のぞみの園で取り入れられるのではないかと。現在行われている医療セミナーなどに加えて、観音山の自然を活かしたイベントの開催など、地域の人に講師を頼み場所を提供し人が集うものを行えば、この施設の良さや認知度が高まり、利用者の生活の向上につながっていくのではないかと思った。

5. 国立のぞみの園の日中活動とその動向 ～新体系の下で～

平成18(2006)年10月1日に自立支援法が施行に伴い、のぞみの園も新体系へと移行すると共に、日中活動サービスおよびその支援体制が見直された。

旧体系における日中活動は、活動支援部が中心となり行ってきた。活動内容は、①陶芸作業、②手芸作業、③木工作业、④園芸作業、⑤授産・受託作業、⑥飼育活動、⑦園芸活動であった。しかし当法人の利用者の平均年齢も57歳となり、年々高齢化が進んでいる。

そこで、これまで作業系の活動を中心として行ってきた当法人の日中活動内容の再検討を平成20年度に行った。そして平成21年1月に新たな日中活動サービスをスタートさせた。具体的には、上記の作業的な活動内容に加え、高齢や身体機能が低下した利用者でも参加できるリラクゼーションやカラオケ、貼り絵、フリーアート、プレイルーム(ボール遊び)、粘土、手芸などの創作的な活動の提供を行うこととした。活動の場としては、寮再編成に伴い使用しなくなった生活寮3棟を活動支援部のサテライトとした「ゆうらく」「ほほえみ」「すまいる工房」を新たに創設した。サテライトによる活動の実現により、移動に伴う身体的負担の軽減ならびに資源の有効活用を図った。

新体制となった現在も定期的に会議を開き、より利用者のニーズや状況に適した活動内容となるよう検討や見直しを重ねている。

また、当法人では、在宅障害者を対象とした日中活動サービスも提供している。平成20年6月に当施設から車で10分程離れた場所に「フリースペースみらい」を開設した。設置目的は、在宅で生活している知的障害のある方が、余暇の時間に気軽に集まり語り合う場として利用しながら、生活への意欲や自立心を高めることを目指し、地域住民の知的障害のある方への理解を推進することにある。活動内容は、絵画教室、折紙工作、紙粘土工作、メイク教室などである。

だが、本事業において自主財源の確保による独立採算制化を図るため、フリースペースみらいを平成20年度末で廃止し、平成21年度からは新たに生活介護事業所として、こちらもやはり当施設から車で10分程離れた場所に「さんぽみち」を開設した。さんぽみちのコンセプトは、①重度・高齢者の日中活動の場の確保。②対象者を原則的に在宅知的障害者とした地域支援のモデル的事業の展開と地域社会資源としての貢献。③ケアホームと生活介護事業による収支バランス、の3点である。サービス内容は、紙粘土、絵画、メイク、折り紙各教室、ウォーキング、園芸などを提供している。

6. 考察

本研究は、近年、ますます顕在化する知的障害者の重度・高齢化への対応を中心に日中活動の支援の状況を全国の知的障害者更生施設すべてを対象とするアンケート調査の結果をもとにまとめ、今後の日中活動に資することを目的として行った。

この考察では、(1) 本調査の特徴、(2) 全体的な回答からいえること、(3) 障害者自立支援法の影響、(4) 重度・高齢化への対応、以上4点を中心に述べていく。

今回の調査結果の第1の特徴は、アンケートの回収率が高い点にある。通常、同一の関係団体等に属しない者を対象とする全数調査では、回収率30%~50%という数字をよく目にするが、今回の調査では、アンケートが1412通発送され、有効回答数958通、回収率67.8%と調査結果が確固たる信頼性を得るに十分な数字となった。本調査にご協力くださった全国の知的障害者更生施設の皆様には心から感謝する次第である。

次に本調査の結果から得たものは、総論的には「日中活動で何か困っていることはありますか」という問いに対し、「あり」と答えている施設が全体の93.9% (問17) と高い数字であったことが挙げられる。この数字の背景には、同じく調査の回答から、施設の職員数の少なさや、利用者の年齢や特性の幅が広いという点が挙げられていて、これが利用者への十分な支援に影響を与えていると考えられる。

障害者自立支援法の影響については、調査結果をもとに新体系に移行した施設と移行していない施設の日中活動の状況に関する比較分析を数量化3類を用いて行った(本調査結果では、障害者自立支援法施行後の新体系に移行した施設は、調査対象施設1412施設中140施設(14.6%、2008年9月現在)であった)。その結果、新体系に移行した施設は日中活動については移行前と同じ既存の作業種を継続している現状が確認された。その理由は、今回の調査項目には含まれていないので明らかではないが、もともと利用者主体に福祉サービス考え、実施し、展開してきた施設は、それほど内容の変化は無いという仮説と日中活動の作業種を考えていきたいが、前述のように施設の職員数の少なさや、利用者の年齢や特性の幅が広いために利用者に適した日中活動の作業種が行われにくいという仮説が考えられる。

重度高齢知的障害者の日中活動については、軽作業を中心とした趣味的余暇活動が実施されていることが把握できたが、利用者のニーズを十分に満たしているのかどうかという点に疑問が残る。好事例の3施設では、職員から時間をかけて種々のアイデアが出され、それが各々の利用者的好评であった。3施設の事例は、加齢に伴い重度化していく知的障害者の日中の過ごし方を考える上で他の施設の参考となるだろう。

更に、今回の調査結果からは、作業種に応じた利用者に対する工賃の支払い状況も把握できた。工賃の支払い状況は、全体の38.5%、残りの約6割は工賃の支払いが無い。また、その工賃の内容は、時給100円以下が圧倒的に多く(問14)、さまざまな理由から工賃が低い状況にあることが伺える。工賃については政府による「工賃倍増5カ年計画」^{文1}があるが、対象は就労継続支援事業所B型、授産施設、小規模通所授産施設となっている。

7. 今後の方向性と本研究の課題

(1) 今後の方向性

本研究の結果から、施設の職員数の少なさや、利用者の年齢や特性の幅が広いことにより利用者への日中活動の支援が充分に行えない状況にあるという課題を抱えている知的障害者更生施設が数多く存在していることが明らかとなった。その具体的な影響先まで今回の調査では明言できないが、人手のいる

作業種への変更や、同じくマンツーマンの支援が必要な高齢・重度の障害者の支援に影響を与えていることは想像に難くない。

このような状況の解決策としては、平成12(2000)年に出された「知的障害者の高齢化対応検討会報告書」¹⁾にあるように、知的障害者更生施設だけが事業主体となる日中活動のみならず高齢者施策の活用と連携や、日中活動支援を専門に担う事業所の活用等の積極的な事業展開が望まれる。現在では、障害者自立支援法において、地域の限られた社会資源を活用できるように「規制緩和」が図られ、さまざまな地域の社会資源を組み合わせたサービス提供を謳っているが、本調査結果を鑑みればこのような形のサービス提供が必要なことは明らかである。

さらにこの2つの課題の解消には、現在の知的障害者更生施設の関係者が他の社会資源の活用に乗出す意識の変革が必要なことはいうまでも無い。

(2) 本研究の課題

本研究では、全国の知的障害者更生施設の日中活動に関するアンケート調査結果から、障害者自立支援法施行後の知的障害者更生施設の日中活動の実態を明らかにすることができた。この点では非常に大きな成果が得られたと考えられるが、利用者への調査ではないことから、真に利用者ニーズに合致したものがなされているのかどうかまでは、本研究では明らかとなっていない。知的障害という障害特性を考えると調査によりその点を明らかにすることには困難があるが、これが本研究の限界であり、今後の課題である。

謝辞

国立のぞみの園の調査研究にご協力いただきました全国の知的障害者更生施設の皆様には、心より感謝いたします。

補注

^{文1} 「工賃倍増5カ年計画」

政府は、平成19年2月に、成長力底上げ戦略構想チームを立ち上げ、「成長力底上げ戦略」を取りまとめた。このうち、障害者等を対象とした就労支援戦略では、「福祉から雇用へ」の基本的な考え方を踏まえ、セーフティネットを確保しつつ、可能な限り就労による自立・生活の向上を図るため、平成19年度を初年度とする「『福祉から雇用へ』推進5カ年計画」を新たに策定、実施することが定められた。

「『工賃倍増5カ年計画』による福祉的就労の底上げ」とは、「『福祉から雇用へ』推進5カ年計画の一環として、障害者の経済的自立に向けて非雇用の形態で働く障害者のため、全都道府県で策定する『工賃倍増5カ年計画』に基づき、官民一体となった取り組みを推進するものである。具体的には、各事業所で、民間企業の技術、ノウハウ等を活用し、経営コンサルタントや企業OBの受け入れによる経営改善や企業経営感覚の醸成を図るとともに、一般企業と協力して商品開発や市場開拓を行う。

参考文献

¹⁾東馬場良文他(2009)「特集就労支援の現状と課題」『障害者の福祉ノーマライゼーション』財団法人本章会社リハビリテーション協会, 29(4), 9-35.

¹⁾財団法人日本知的障害者福祉協会(2009)『平成19年度全国知的障害児者施設・事業全国実態調査報告書』.

¹⁾知的障害者の高齢化対応検討会(2000)「地底障害者の高齢化対応検討会報告書」.